

「文京区版ひきこもり総合対策」の強化事業の実施結果について

1 経緯

「文京区版ひきこもり総合対策」における、中高年層からの相談支援を強化するため、国の「地域就職氷河期世代支援加速化交付金」(補助率 10/10)を活用し、広報事業及び調査事業を令和6年度に実施した。

2 広報事業実施結果

以下の啓発物について、令和6年9月に発行した。

- (1)8050親世代向けリーフレット「親亡き後の心配を安心へ」
 - ① 発行部数 5,000部
 - ② 配布先 地域活動センター、図書館等公共施設、支援関係機関
- (2)区報特集号「ひきこもり・生きづらさサポート特集号」
 - ① 発行部数 75,000部
 - ② 配布先 新聞折込、地域活動センター、図書館等公共施設、支援関係機関
- (3)中高年向けひきこもり情報誌「ミドルエイジ ライフハンドブック」
 - ① 発行部数 2,000部
 - ② 配布先 配付希望者、支援関係機関

3 調査事業実施結果

上記2(2)区報特集号の発行後、調査を実施した。

- (1)調査の種類
 - ア 区民向け調査
 - ① 一般区民向け調査
 - ② ひきこもり本人及び家族等向け調査
 - イ 支援関係機関向け調査
支援関係機関における支援課題とニーズ等
- (2)調査方法
 - ア 区民向け調査
区報特集号にて本調査の周知及びウェブ回答用の二次元コードを掲載
公共施設等での紙調査票の配布
 - イ 支援関係機関向け調査
郵送配付、郵送による回収、支援関係機関訪問によるヒアリング

(3)実施時期

ア 区民向け調査

令和6年9月 20 日(金)～11 月 10 日(日)

イ 支援関係機関向け調査

令和6年 11 月 21 日(木)～令和7年1月 10 日(金)

(4)回収結果

ア 区民向け調査

	有効回収数	回答内訳	
		一般区民	ひきこもり本人及び家族等
ウェブ回答	419件	371件	48件
紙調査回答	499件	450件	49件
合計	918件	821件	97件

イ 支援関係機関向け調査

20か所

(5)調査結果の概要(詳細は別添のとおり)

ア 「相談しない、できないと思う」と回答した方は、「支援情報をどれも知らない」と回答した割合が高かった。また、年代による情報収集手段の違いが顕著だった。ひきこもり本人やその家族等からは、「情報を届けること」に対する支援ニーズが高いとの回答が得られた。

イ ひきこもり状態にある方へのサポートについて、「積極的に関わりたい」「関心はあるが、知識として知っておきたい」と回答した区民の割合が6割を超えていた。

ウ ひきこもり支援に対する意見は多様であり、相談や支援メニューに関する内容に限らず、不登校、生きづらさ、精神疾患など、複合的な課題が含まれていた。

4 今後の取り組み

- (1)本結果を基礎資料として、ひきこもり本人及び家族等が相談・支援につながる体制のさらなる強化に向けて、支援関係機関等が会するひきこもり等自立支援会議で検討を行い、効果的な情報発信を検討していく。
- (2)区民のひきこもり支援への関心が高かったことを踏まえ、区民がアウトリーチサポーターとなって支援する「ひきこもり地域共生サポート事業」を令和7年度から充実させていくとともに伴走型支援を含めた包括的な相談支援体制を強化していく。
- (3)ひきこもり本人及び家族等の多様性に合わせ、多機関・多職種連携を図るため、重層的支援体制整備事業との連携を深めていく。

(別添)

文京区ひきこもり支援に関する調査 報告書

令和7年5月



文京区



目次

第1章「文京区ひきこもり支援に関する調査」（区民向け）

第1節	調査概要	1
1	調査名	1
2	調査の目的	1
3	調査の対象・方法・期間	1
4	ひきこもりの定義	2
5	調査結果の見方	2
第2節	調査結果	3
1	回答者の概要	3
2	ひきこもり等に関する意識について（一般回答）	6
(1)	社会福祉施策への関心度	6
(2)	ひきこもりという状態の印象・考え	8
(3)	自身がひきこもり状態になった際の相談先	11
(4)	区のサポートの認知度	15
(5)	区が実施している広報媒体の認知度	17
(6)	日常生活で利用している通信手段	20
(7)	日常生活で利用している情報収集手段	22
(8)	ひきこもり支援への関心度	24
(9)	ひきこもり状態にある方の有無	27
3	ひきこもり本人及び家族等について（ひきこもり本人等回答）	28
(1)	ひきこもり本人の同居の状況	28
(2)	ひきこもり本人の居住地	29
(3)	回答者とひきこもり本人の関係性	30
(4)	ひきこもり本人の年代	31
(5)	ひきこもり本人の性別	32
(6)	ひきこもり状態の期間	33
(7)	ひきこもり本人の就労経験の有無	35
(8)	ひきこもり本人の就労への意欲	36
(9)	ひきこもり本人が利用する通信手段	37
(10)	ひきこもり本人の自宅での過ごし方	39
(11)	ひきこもり本人について回答者の不安	41

(12) ひきこもりについての相談の有無	43
(13) ひきこもり以外の困りごとでの相談の有無	47
(14) ひきこもり本人や家族等の支援についての考え	48
(15) ひきこもり本人が必要とする支援	49
(16) ひきこもり本人の家族等が必要とする支援	51

第3節 文京区のひきこもり支援への意見・要望（記述）

(1) ひきこもり支援センターに関すること	53
(2) 相談に関すること	53
(3) 茶話会や講演会に関すること	53
(4) 支援メニューに関すること	53
(5) 情報発信に関すること	54
(6) 調査に関すること	54
(7) 不登校・生きづらさ等に関すること	54
(8) その他	54

第2章「文京区ひきこもり支援に関する調査」（支援関係機関向け）

第1節 支援関係機関向け調査概要	55
1 調査名	55
2 調査の目的	55
3 調査の対象・方法・期間	55
4 ひきこもりの定義	55
5 調査結果の見方	56
6 調査票内の用語について	56
第2節 調査結果	56
1 回答者の概要	56
2 文京区ひきこもり支援窓口の認知度について	57
3 区で発行した広報物の活用について	58
(1) ひきこもり相談のリーフレット等を渡す機会の有無	58
(2) 広報物に対する意見	58
4 支援関係機関における支援課題とニーズ	60
(1) ひきこもり相談の窓口につなぐにあたっての課題	60
(2) 網の目のような体制で支援するために必要と考えること	61
5 自由意見（一部抜粋）	62

第3章 資料編

1 区民向け調査	63
(1) 調査協力依頼	63
(2) 区報特集号	64
(3) 調査票	65
2 支援関係機関向け調査	69
(1) 調査協力依頼	69
(2) 調査票	70

第1章「文京区ひきこもり支援に関する調査」（区民向け）

第1節 調査概要

1. 調査名

「文京区ひきこもり支援に関する調査」

2. 調査の目的

文京区では、ひきこもり本人及び家族の心情に寄り添った支援を推進するため、令和2年度より「文京区版ひきこもり総合対策」を開始し、支援情報の発信や広域連携の相談支援体制の強化を図ってまいりました。

今回の調査は、区内在住の方を対象に、区のひきこもり支援施策に対する認知度と支援ニーズを把握し、ひきこもり支援の広報に関わる効果検証を行うことと合わせ、文京区のひきこもり支援施策の検討材料とすることを目的として実施します。

3. 調査の対象・方法・期間

【調査対象】

文京区在住の方(15歳以上)

【調査方法】

①Web回答

- ・区報(ひきこもり・生きづらさサポート特集号)に本調査の周知及びWeb回答用の二次元コードを掲載。区報は令和6年9月20日(金)に53,470世帯へ新聞折込で配布。
- ・ホームページ、区SNS(LINE、Facebook、X)で調査の周知及びWeb回答の依頼。
- ・ひきこもり講演会等にてWeb回答用の二次元コードと紙調査票を合わせて配布。
- ・公共施設、支援関係機関等にて紙調査票とWeb回答用の二次元コードを配架。

②紙調査票回答

- ・ネット環境がない等Web回答が困難な方からの申し出に対して、紙調査票を配付及び送付。
- ・公共施設、支援関係機関等での配架。
- ・区で実施する研修やイベント等での配布。
- ・支援冊子配布希望者に紙調査票の配付。

【調査期間】 令和6年9月20日(金)～令和6年11月10日(日)

【回収数】 918人(この他、区外回答249人。本調査まとめには含めない)

4. ひきこもりの定義

この調査では、「様々な要因により、社会参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け概ね自宅にとどまり続けている状態」を「ひきこもり」と定義しています。

※「ひきこもり」は状態を指す概念であり、それ自体は必ずしも問題行動や疾患を意味するわけではありませんが、本人は自尊感情や、生きがいをもって自分らしく、よりよく生きる意欲や勇気について、失っている場合が少なくありません。

5. 調査結果の見方

- (1) 図・表中のnは、該当質問での回答者数を表します。
- (2) 「いくつでも」と記載のあるものは質問に対する回答がいくつでもよい複数回答を表し、特にことわり書きのない場合は質問に対する回答が1つの単数回答を表します。
- (3) 回収データのうち、集計不能なもの（回答が1つであるべきものを複数の回答をしているもの）は「無効」としました。
- (4) 回答の記載がなかったものは、「無回答」としました。
- (5) 回答は、nを100%として百分率で算出してあります。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体の示す数値と一致しないことがあります。
- (6) 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- (7) 選択肢の「その他」の回答では、具体的に記載があった主な内容を記載しました。
- (8) 問9までの回答は、区外在住者を除く回答者全員を対象とした「一般回答」として集計しています。
- (9) 問9において、ひきこもり状態にある方が「いる」と回答した方を「ひきこもり本人自身及び家族等」とし、問10以降の回答者としてしました。
- (10) 問9において「いない」と回答した方の問10以降の回答は集計しませんでした。
- (11) 東京都が実施した「ひきこもりへの認識に関する世論調査（令和6年2月公表）」については、調査方法が異なり比較できないので、参考とします。
- (12) 本調査は、ひきこもりに関する支援情報の掲載された区報で調査を周知し、回答を得たため、支援情報の認知度の数値については考慮が必要です。

第2節 調査結果

1 回答者の概要

(1)【回答方法】

(人)

	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答
Web回答	419	24	47	53	67	141	56	26	5	0
紙調査回答	499	2	15	30	45	79	103	128	86	11
合計	918	26	62	83	112	220	159	154	91	11

回答者918人中Webでの回答が419人(45.6%)、紙調査票での回答が499人(54.4%)でした。10代、20代は紙調査票の回答が少なく、Web調査の回答が中心となりました。50代まではWebでの回答が多く、60代以降は紙調査票での回答が多くなる傾向が見られました。

<参考：区外在住者>

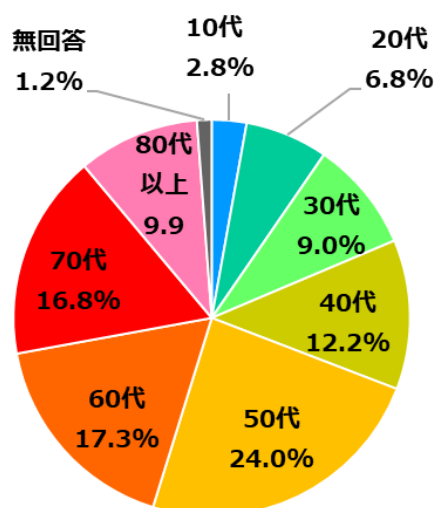
(人)

	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答
LoGo(電子申請)	197	22	85	31	19	24	12	3	1	0
紙調査票	52	0	1	5	3	23	14	2	4	0
合計	249	22	86	36	22	47	26	5	5	0

本調査は、区内の大学等にも広く周知した結果、文京区在学・在勤などの方等を含む249人の区外の方からの回答を得ました。区外の方からの回答については本調査報告には含めませんが、貴重なご意見として区の検討の参考とさせていただきます。

(2)【回答者年代】 n=918

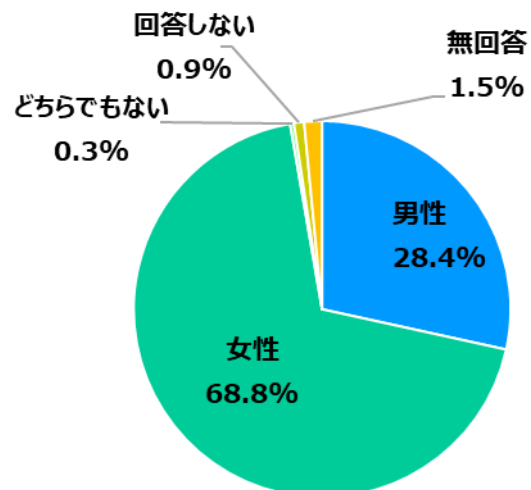
年代	人	%
10代	26	2.8
20代	62	6.8
30代	83	9.0
40代	112	12.2
50代	220	24.0
60代	159	17.3
70代	154	16.8
80代以上	91	9.9
無回答	11	1.2



10代は15歳以上の回答としたため、15歳以上19歳以下の回答となっており、構成比は全体の3%と低い回答数にとどまりました。回答への協力が多かったのは、50代で全体の約4分の1(220件、24%)という結果となりました。

(3) 【回答者性別】 n=918

性別	人	%
男性	261	28.4
女性	632	68.8
どちらでもない	3	0.3
回答しない	8	0.9
無回答	14	1.5

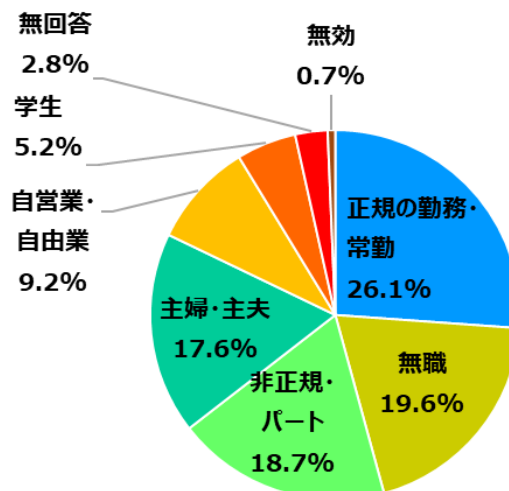


「男性」が28.4%、「女性」が68.8%、「どちらでもない」が0.3%、「回答しない」が0.9%となり、女性が7割弱と多くなりました。

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答	総計
男	実数(人)	9	27	29	33	66	43	34	20	0	261
	割合(%)	1.0	2.9	3.2	3.6	7.2	4.7	3.7	2.2	0.0	28.4
女	実数(人)	14	35	53	77	152	113	119	67	2	632
	割合(%)	1.5	3.8	5.8	8.4	16.6	12.3	13.0	7.3	0.2	68.8
どちらでもない	実数(人)	2	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	割合(%)	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3
回答しない	実数(人)	1	0	1	2	1	2	0	0	1	8
	割合(%)	0.1	0.0	0.1	0.2	0.1	0.2	0.0	0.0	0.1	0.9
無回答	実数(人)	0	0	0	0	1	1	1	3	8	14
	割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.3	0.9	1.5
総計	実数(人)	26	62	83	112	220	159	154	91	11	918
	割合(%)	2.8	6.8	9.0	12.2	24.0	17.3	16.8	9.9	1.2	100.0

(4) 【回答者就労状況】 n=918

就労状況	人	%
正規の勤務・常勤	240	26.1
無職	180	19.6
非正規・パート	172	18.7
主婦・主夫	162	17.6
自営業・自由業	84	9.2
学生	48	5.2
無回答	26	2.8
無効（複数にチェック）	6	0.7



「正規の勤務・常勤」が26.1%で最も多く、次いで「無職」19.6%、「非正規・パート」18.7%、「主婦・主夫」17.6%となっています。「主婦・主夫」と「非正規・パート」の両方を選択した方は「無効」としています。

(5) その他

調査の実施にあたり、区報特集号を発行するほか、公共施設等への調査票の配架や区内関係機関のイベント等で調査回答への協力を依頼しました。回収結果としては、若年層の回収数が少なく、中高年以上の回答比率が高くなっています。また、区報特集号で調査回答を呼びかけたことから、広報媒体の認知度に関する設問で区報の認知度が高くなる等、結果については年代や性別の偏りに考慮が必要です。

一方で、ひきこもりに関する区報特集号や配架物に気を留めた区民の方からの意見であることから、具体的な支援ニーズとして受け止め、区のひきこもり支援施策の検討資料としていきます。

2 ひきこもり等に関する意識について（一般回答）

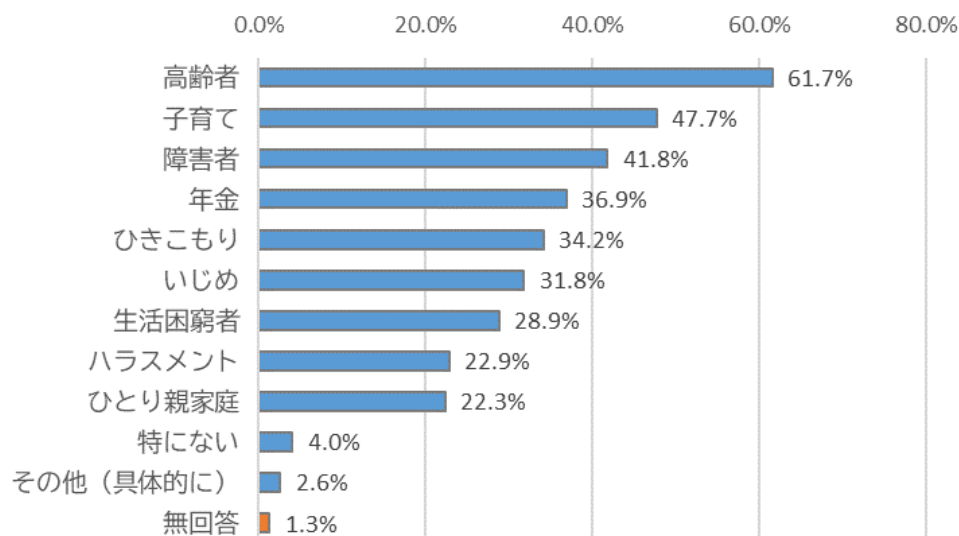
（１） 社会福祉施策への関心度

1. あなたが社会福祉に関する分野の中で関心があるものは何ですか。（いくつでも）

n=918

（人）

高齢者	566
子育て	438
障害者	384
年金	339
ひきこもり	314
いじめ	292
生活困窮者	265
ハラスメント	210
ひとり親家庭	205
特にない	37
その他（具体的に）	24
無回答	12

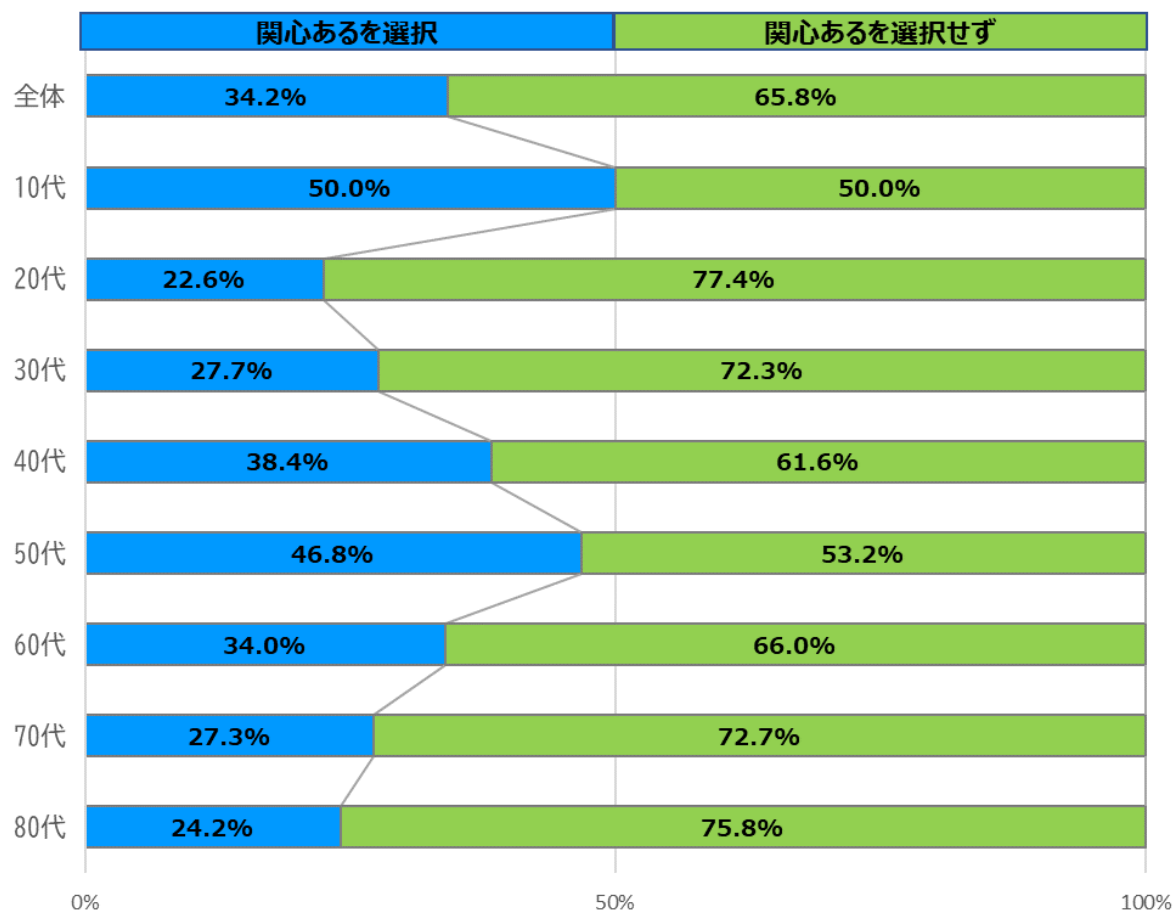


社会福祉分野で関心のあるものについては、「高齢者」が61.7%で最も多く、次いで「子育て」47.7%、「障害者」41.8%、「年金」36.9%、「ひきこもり」34.2%という結果となりました。
その他（24件）：主な内容

- ・SOGI／孤独死／ヤングケアラー／安楽死／解雇・働き方／虐待・ジェンダー・神経発達症
- 子どもたちへの教育／社会的養護が必要な子どもたち／女性非正規1人暮らしの方
- 親との関係／身寄りのない単身高齢者への支援・後見人制度／精神疾患／単身住まい
- 不登校／高齢者の居場所／老人一人暮らしへの防犯カメラの設置／冤罪・DV 等

【クロス集計】 ひきこもりへの関心×年代

n=314



年代別にみると、ひきこもりへの関心が高かったのは、「10代」が50.0%で最も多く、次いで「50代」46.8%、「40代」38.4%、「60代」34.0%となりました。一方、「20代」「80代」の関心が低く、関心が高い世代の半分程度の関心度でした。

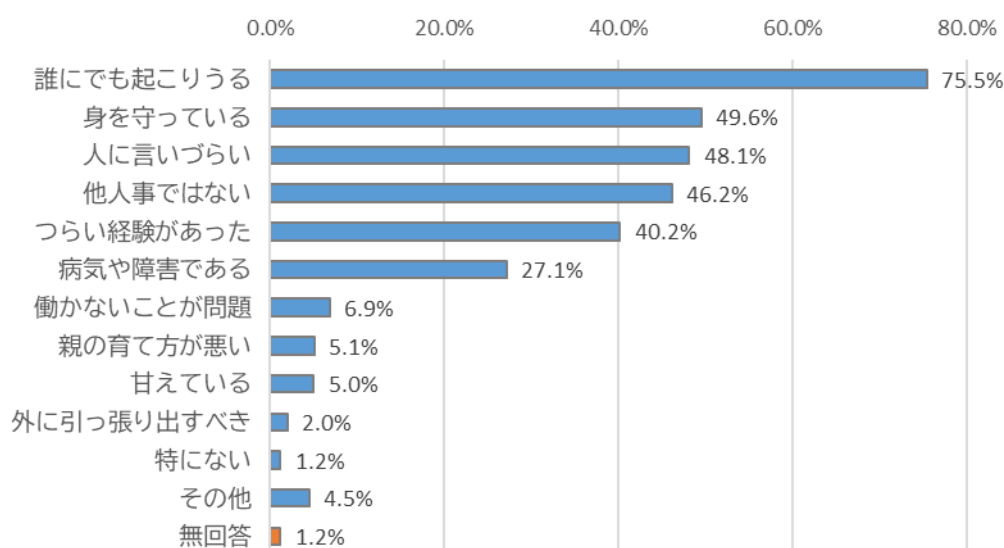
(2) ひきこもりという状態の印象・考え

2. あなたは「ひきこもり」という状態について、どのような印象・考えを持っていますか。
(いくつでも)

n=918

(人)

誰にでも起こりうる	693
ストレスから身を守っている	455
人に言いづらい	442
他人事ではない	424
つらい経験があった	369
病気や障害である	249
働かないことが問題	63
親の育て方が悪い	47
甘えている	46
無理にでも外に引っ張り出すべき	18
特にない	11
その他	41
無回答	11



ひきこもり状態についての印象については、「誰にでも起こりうる」が75.5%で最も多く、次いで「ストレスから身を守っている」49.6%、「人に言いづらい」48.1%、「他人事ではない」46.2%、「つらい経験があった」40.2%という結果となりました。

一方、「働かないことが問題」6.9%、「親の育て方が悪い」5.1%、「甘えている」5.0%、「無理にでも外に引っ張り出すべき」2.0%といった印象は少ない結果となりました。

その他(41件): 主な内容

親の過保護／家族が隠蔽しがちな印象／足が悪く外出できない／保身／賢い／気力がわからない
家庭環境が悪い／生まれ持った気質／家庭・学校・職場の環境が悪い／居場所がない 等

【クロス集計】 ひきこもりという状態の印象×年代（複数回答）

(%)

	n	誰にでも起こりうる	ストレスから身を守っている	他人事ではない	人に言いづらい	病気や障害である	つらい経験があった	甘えている	働かないことが問題	親の育て方が悪い	無理にでも外に引っ張り出すべき	特にない	その他	無回答
全体	918	75.5	49.6	46.2	48.1	27.1	40.2	5.0	6.9	5.1	2.0	1.2	4.5	1.2
10代	26	80.8	50.0	57.7	65.4	26.9	65.4	3.8	7.7	7.7	3.8	3.8	0.0	0.0
20代	62	66.1	50.0	46.8	48.4	24.2	53.2	6.5	6.5	3.2	1.6	0.0	3.2	0.0
30代	83	81.9	57.8	49.4	48.2	20.5	37.3	6.0	7.2	6.0	4.8	0.0	2.4	0.0
40代	112	79.5	49.1	56.3	55.4	26.8	43.8	5.4	8.9	4.5	1.8	0.0	6.3	0.0
50代	220	75.0	51.8	50.0	54.1	25.0	42.3	3.6	5.5	5.5	1.4	0.5	4.5	0.0
60代	159	82.4	62.3	44.7	41.5	26.4	40.3	4.4	6.9	3.1	0.0	0.6	4.4	0.0
70代	154	72.1	43.5	32.5	50.0	35.7	38.3	7.1	7.8	5.8	1.9	1.9	3.2	0.0
80代	91	71.4	29.7	48.4	34.1	29.7	25.3	4.4	5.5	6.6	3.3	5.5	8.8	2.2
無回答	11	18.2	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	81.8

【年代別のひきこもりという状態の印象 上位3つ】

	1 位		2 位		3 位	
全体	誰にでも起こりうる	75.5 %	ストレスから身を守っている	49.6 %	人に言いづらい	49.6 %
10代	誰にでも起こりうる	80.8 %	人に言いづらい	65.4 %	つらい経験があった	65.4 %
20代	誰にでも起こりうる	66.1 %	ストレスから身を守っている	50.0 %	人に言いづらい	48.4 %
30代	誰にでも起こりうる	81.9 %	ストレスから身を守っている	57.8 %	他人事ではない	49.4 %
40代	誰にでも起こりうる	79.5 %	他人事ではない	56.3 %	人に言いづらい	55.4 %
50代	誰にでも起こりうる	75.0 %	人に言いづらい	54.1 %	ストレスから身を守っている	51.8 %
60代	誰にでも起こりうる	82.4 %	ストレスから身を守っている	62.3 %	他人事ではない	44.7 %
70代	誰にでも起こりうる	72.1 %	人に言いづらい	50.0 %	ストレスから身を守っている	43.5 %
80代	誰にでも起こりうる	71.4 %	他人事ではない	48.4 %	人に言いづらい	34.1 %

「誰にでも起こりうる」は、どの年代においても最も割合が高く、次いで「ストレスから身を守っている」「人に言いづらい」「他人事ではない」となりました。10代では、「人に言いづらい」「つらい経験があった」が6割を超えました。また、「甘えている」、「働かないことが問題」「親の育て方が悪い」「無理にでも外に引っ張り出すべき」の印象は、各年代ともに低い割合となりました。

(参考) 「ひきこもりへの認識に関する世論調査(令和6年2月公表 東京都)」

表1-3-1 ひきこもりという状態の印象・考え一性・年齢別

		(%)														
	n	誰にでも起こりうる	ストレスから身を守っている	他人事ではない	人に言いづらい	病気や障害である	つらい経験がある	甘えている	働かないことが問題	親の育て方が悪い	怠けている	I T関係が得意	無理にでも外に引っ張り出すべき	その他	特にな	無回答
全 体	1,846	71.9	41.4	40.0	39.3	34.7	27.1	14.6	13.7	9.8	7.7	3.4	2.7	5.3	2.4	0.5
< 性・年齢別 >																
男 性 (計)	787	70.0	38.2	37.9	37.4	35.7	24.8	18.4	14.1	10.7	10.3	2.8	3.3	4.7	3.4	0.4
18 ～ 29 歳	86	74.4	52.3	39.5	45.3	23.3	36.0	15.1	7.0	5.8	14.0	7.0	4.7	5.8	3.5	-
30 代	102	67.6	49.0	46.1	40.2	28.4	34.3	22.5	22.5	9.8	18.6	2.0	2.9	3.9	1.0	-
40 代	126	79.4	38.9	46.8	41.3	38.9	26.2	16.7	13.5	11.9	8.7	2.4	3.2	1.6	0.8	-
50 代	155	74.2	34.8	44.5	43.2	35.5	26.5	22.6	16.1	9.7	12.9	1.9	5.8	5.2	2.6	-
60 代	125	62.4	32.0	27.2	32.0	38.4	22.4	16.0	8.8	13.6	6.4	3.2	1.6	5.6	3.2	0.8
70 歳 以 上	193	64.8	32.6	28.5	28.5	41.5	14.0	17.1	15.0	11.4	5.7	2.1	2.1	5.7	7.3	1.0
女 性 (計)	998	73.4	44.2	41.9	41.4	34.7	29.1	11.6	13.4	9.2	5.6	3.9	2.1	5.8	1.4	0.7
18 ～ 29 歳	95	66.3	49.5	38.9	43.2	28.4	42.1	11.6	12.6	9.5	5.3	3.2	3.2	2.1	2.1	-
30 代	123	74.0	51.2	44.7	50.4	39.0	36.6	12.2	12.2	9.8	7.3	4.9	2.4	4.1	0.8	-
40 代	171	72.5	43.3	39.8	42.1	35.1	27.5	11.7	14.6	10.5	6.4	2.9	1.2	4.7	0.6	-
50 代	216	78.2	49.1	39.8	46.3	33.8	28.7	7.4	12.0	7.4	3.7	6.9	2.8	11.1	1.4	0.5
60 代	153	77.1	49.7	41.8	40.5	39.2	24.8	13.1	9.2	3.9	5.2	3.3	1.3	5.9	0.7	0.7
70 歳 以 上	240	70.0	31.3	45.0	31.7	32.5	24.2	14.2	17.5	12.9	6.3	2.1	2.1	4.2	2.5	2.1

調査方法が異なるため参考となりますが、東京都調査結果では、「誰にでも起こりうる」が71.9%(区調査結果75.5%)、「ストレスから身を守っている」が41.4%(区調査結果49.6%)、「他人事ではない」が40.0%(区調査結果46.2%)でした。また、「人に言いづらい」は、東京都調査結果では39.3%(区調査結果48.1%)でした。

一方、東京都調査結果では、「甘えている」が14.6%(区調査結果5.0%)、「働かないことが問題」が13.7%(区調査結果6.9%)、「親の育て方が悪い」が9.8%(区調査結果5.1%)でした。

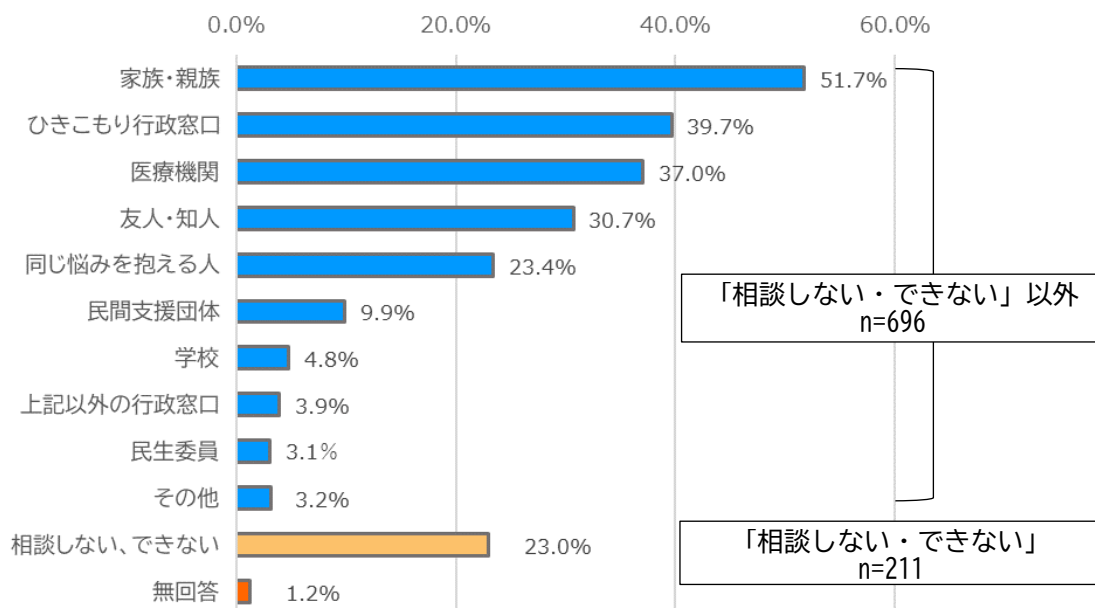
(3) 自身がひきこもり状態になった際の相談先

3. もし、あなたがひきこもりの状態になったら、そのことをどこに相談しますか。
(いくつでも)

n=918

(人)

相談先	
家族・親族	475
ひきこもり行政窓口	364
医療機関	340
友人・知人	282
同じ悩みを抱える人	215
民間支援団体	91
学校	44
上記以外の行政窓口	36
民生委員	28
その他	29
相談しない、できない	211
無回答	11



ひきこもり状態になった際の相談先は、「家族・親族」が51.7%で最も多く、次いで「ひきこもり行政窓口」39.7%、「医療機関」37.0%、「友人・知人」30.7%、「同じ悩みを抱える人」23.4%という結果となりました。

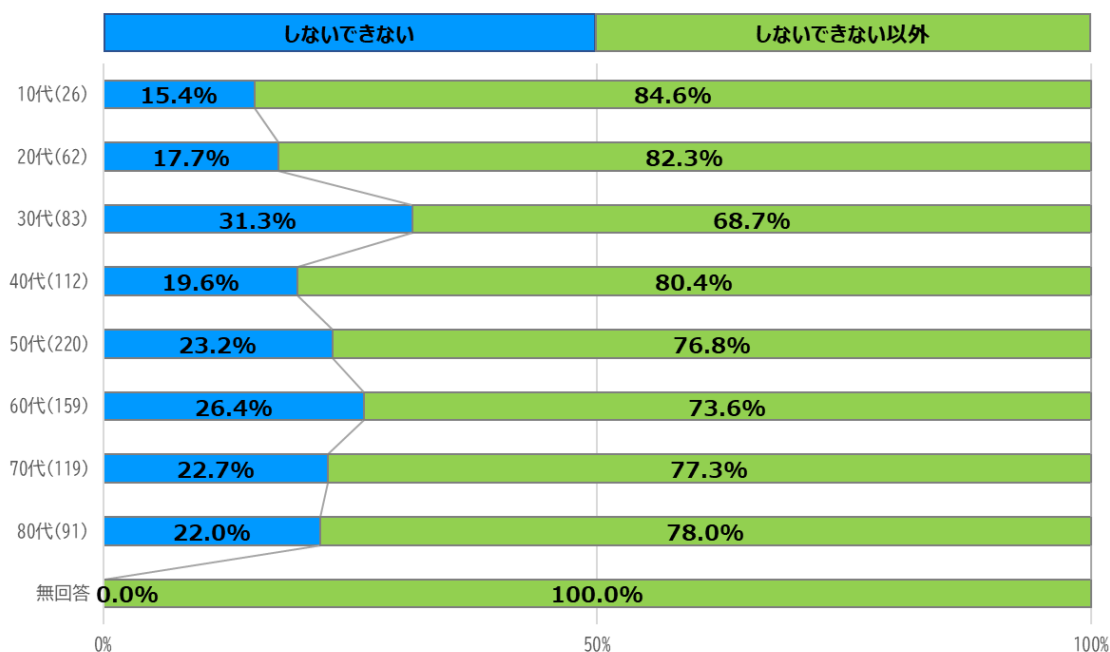
一方、「相談しない、できない」は、211件（23.0%）となっています。

その他（29件）：主な内容

ネットの匿名掲示板／直接つながりのない人／徒歩で参加できる遊技場／職場の人／社会福祉協議会／本気になって自分の為に動いてくれると思えた人／新聞に掲載されている相談窓口／習い事の先生 等

【クロス集計】「相談しない、できないと思う」×年代

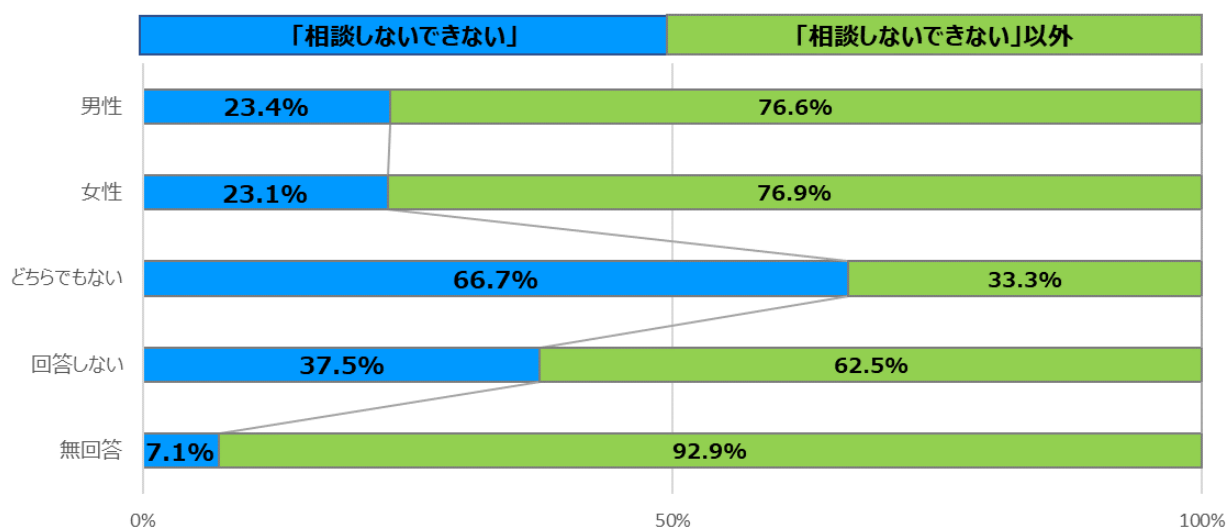
n=907



年代別（無回答を除く）では、「相談しない、できないと思う」の回答割合は、30代が最も多く31.3%でした。その他の年代では、15%から20%強の割合となっており、差異はそれほど見られませんでした。

【クロス集計】「相談しない、できないと思う」×性別

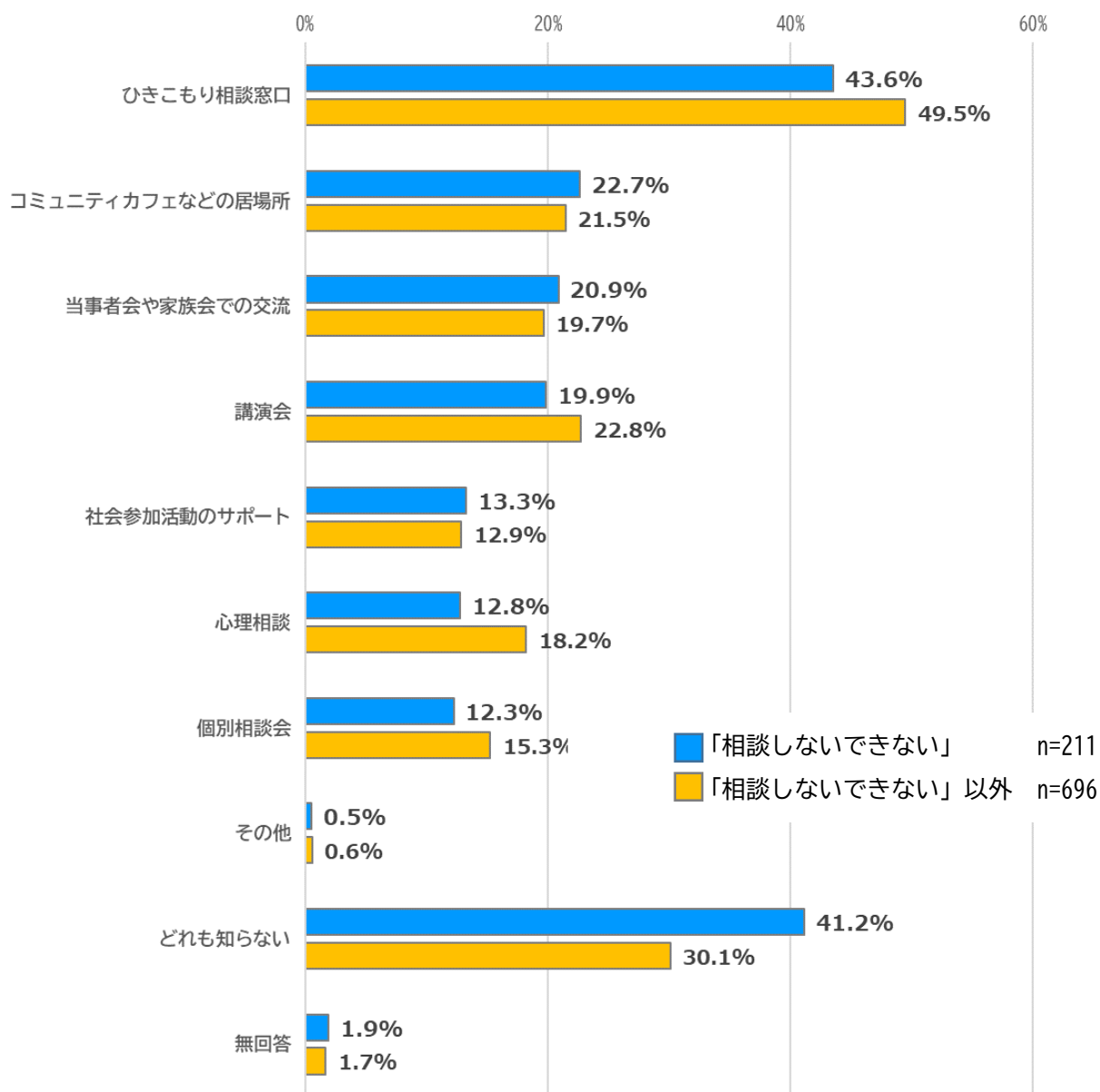
n=907



回答者性別（無回答を除く）では、「相談しない、できないと思う」の回答割合は「男性」「女性」による差異はそれほど見られず2割程度でしたが、「どちらでもない」と回答した方は6割を超えました。

【クロス集計】「相談しない、できないと思う」×支援情報の認知度

※「支援情報の認知度」の結果は P15 参照

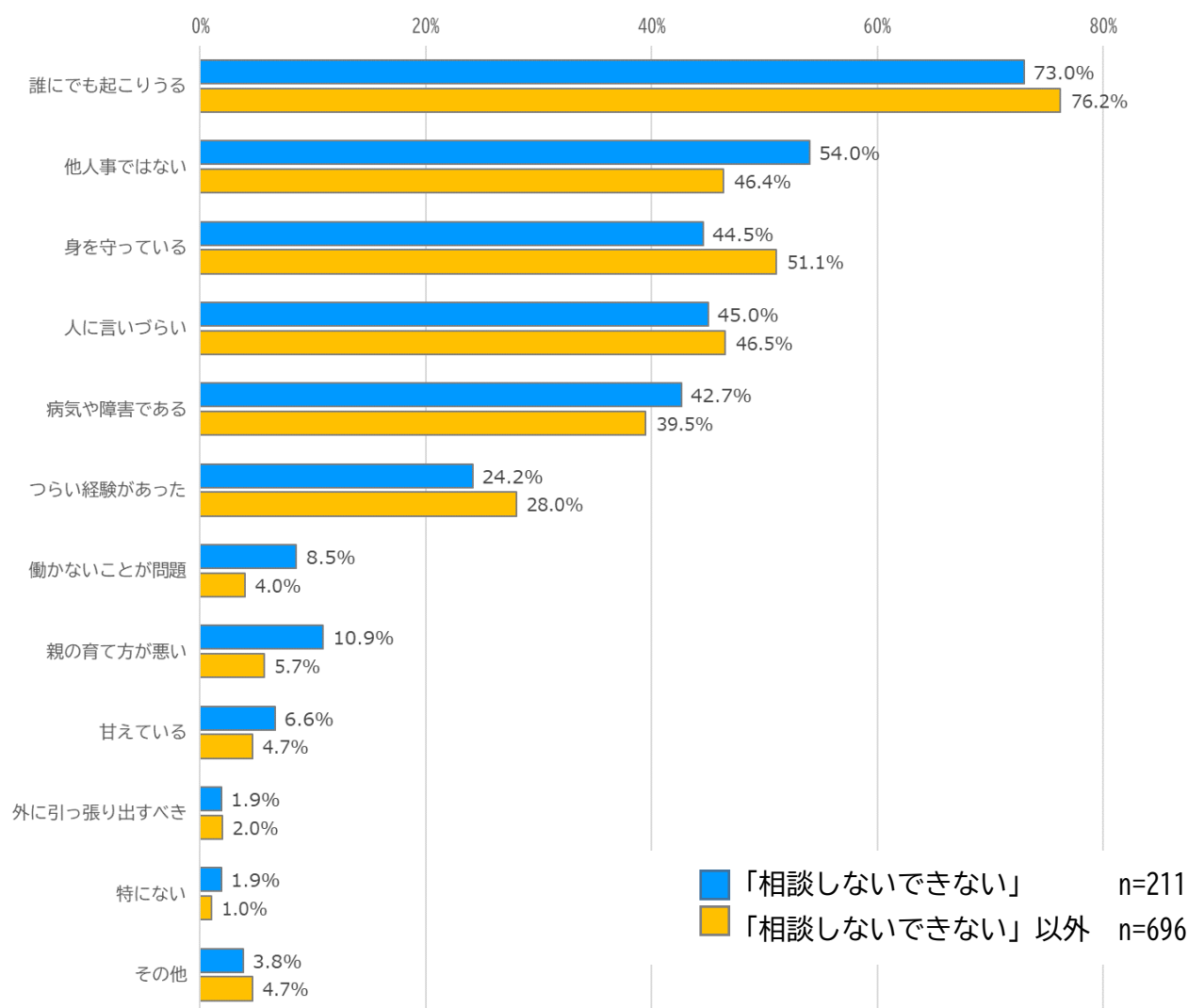


「相談しない、できないと思う」回答者211人と「相談しない、できないと思う」以外の回答者696人について、支援情報の認知度を比較しました。

支援情報を「どれも知らない」では、「相談しない、できないと思う」が41.2%、「相談しない、できないと思う」以外が30.1%と11.1ポイントの差があり、「相談しない、できない」人のほうが支援の認知度が低い結果でした。

このほかでは、10ポイント以上の差がある項目はありませんでした。

【クロス集計】「相談しない、できないと思う」×ひきこもりへのイメージ



ひきこもりへのイメージについては、「相談しない、できないと思う」の回答者（211人）と、「相談しない、できないと思う」の回答者以外（696人）を比較すると、似通った傾向にありましたが、「他人事ではない」では、7.6ポイント、「身を守っている」では6.6ポイントの差がありました。なお、「働かないことが問題」「親の育て方が悪い」では、「相談しない、できないと思う」の回答者がそれ以外の回答者の倍の割合になっています。

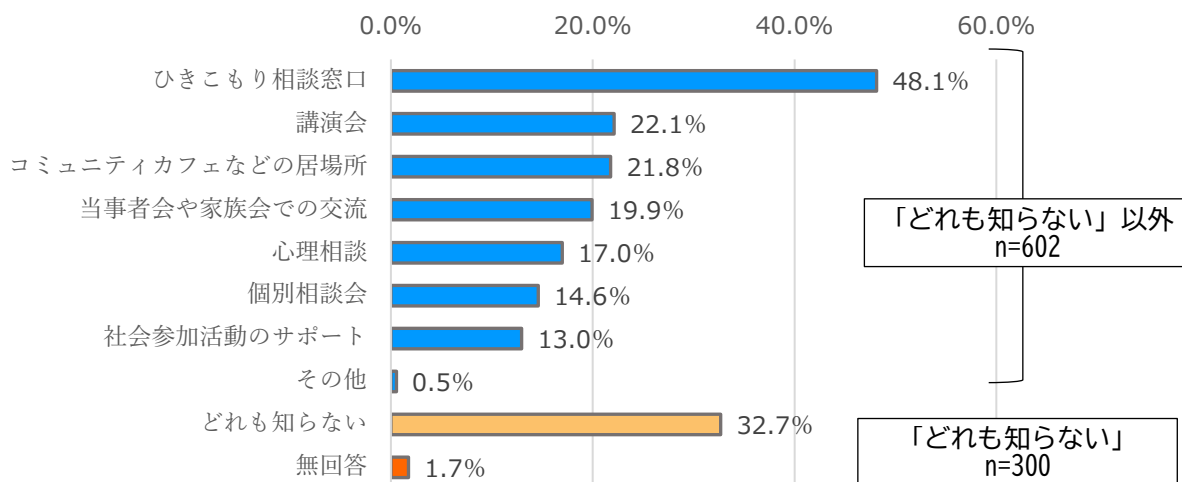
(4) 区のサポートの認知度

4. ひきこもりに関する区のサポートについて、あなたが知っているものはありますか。
この中から知っているものすべてをお選びください。(いくつでも)

n=918

(人)

ひきこもりに関する相談窓口	442	602
講演会	203	
コミュニティカフェなどの居場所	200	
当事者会や家族会での交流	183	
心理相談	156	
個別相談会	134	
社会参加活動のサポート（ボランティア体験や短時間就労経験）	119	
その他	5	
どれも知らない		300
無回答		16



ひきこもりに関する区のサポートの認知度については、「ひきこもりに関する相談窓口」が48.1%で最も多く、次いで「どれも知らない」が32.7%、「講演会」が22.1%、「コミュニティカフェなどの居場所」が21.8%、「当事者会や家族会」が19.9%、「心理相談」が17.0%という結果となりました。

その他（5件）：主な内容

区役所／SNS

【クロス集計】区のサポートの認知度×性別・年代

(件)

		n	ひきこもり 相談窓口	講演会	コミュニ ティカフェ などの居場 所	当事者会や 家族会での 交流	心理相談	個別相談会	社会参加活 動のサポー ト	その他	どれも知ら ない	無回答
年代	全体	918	442	203	200	183	156	134	119	5	300	16
	10代	26	10	3	3	1	7	3	1	0	11	0
	20代	62	18	8	9	11	14	4	6	0	30	1
	30代	83	39	13	13	21	10	11	9	0	31	0
	40代	112	46	16	17	17	21	18	7	1	42	0
	50代	220	120	63	67	56	43	41	36	1	59	0
	60代	159	96	43	43	39	29	25	21	0	40	3
	70代	154	77	42	38	27	24	25	31	2	44	3
	80代	91	29	12	9	9	8	7	6	1	40	9
	無回答	11	7	3	1	2	0	0	2	0	3	0
性別	男性	261	113	31	46	35	29	31	31	2	110	3
	女性	632	319	168	149	143	126	101	87	3	180	11
	どちらでもない	3	1	1	0	0	1	1	0	0	2	0
	回答しない	8	2	0	2	1	0	0	0	0	4	0
	無回答	14	7	3	3	4	0	1	1	0	4	2

(%)

		n	ひきこもり 相談窓 口	講演会	コミュニ ティカ フェなど の居場所	当事者会 や家族会 での交流	心理相談	個別相談 会	社会参加 活動のサ ポート	その他	どれも知ら ない	無回答
年代	全体	918	48.1	22.1	21.8	19.9	17.0	14.6	13.0	0.5	32.7	1.7
	10代	26	38.5	11.5	11.5	3.8	26.9	11.5	3.8	0.0	42.3	0.0
	20代	62	29.0	12.9	14.5	17.7	22.6	6.5	9.7	0.0	48.4	1.6
	30代	83	47.0	15.7	15.7	25.3	12.0	13.3	10.8	0.0	37.3	0.0
	40代	112	41.1	14.3	15.2	15.2	18.8	16.1	6.3	0.9	37.5	0.0
	50代	220	54.5	28.6	30.5	25.5	19.5	18.6	16.4	0.5	26.8	0.0
	60代	159	60.4	27.0	27.0	24.5	18.2	15.7	13.2	0.0	25.2	1.9
	70代	154	50.0	27.3	24.7	17.5	15.6	16.2	20.1	1.3	28.6	1.9
	80代	91	31.9	13.2	9.9	9.9	8.8	7.7	6.6	1.1	44.0	9.9
	無回答	11	63.6	27.3	9.1	18.2	0.0	0.0	18.2	0.0	27.3	0.0
性別	男性	261	43.3	11.9	17.6	13.4	11.1	11.9	11.9	0.8	42.1	1.1
	女性	632	50.5	26.6	23.6	22.6	19.9	16.0	13.8	0.5	28.5	1.7
	どちらでもない	3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0
	回答しない	8	25.0	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	無回答	14	50.0	21.4	21.4	28.6	0.0	7.1	7.1	0.0	28.6	14.3

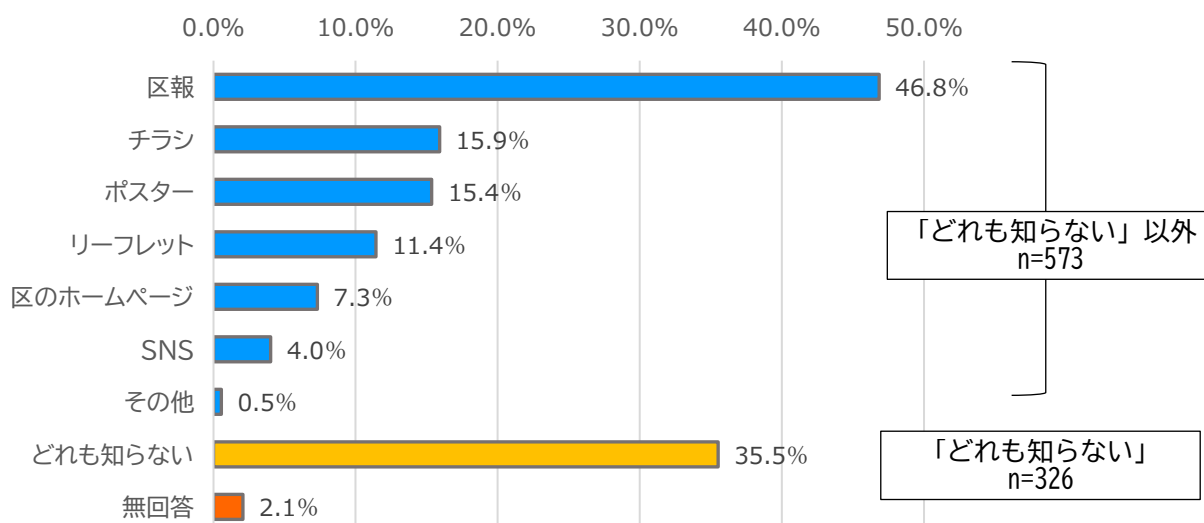
ひきこもりに関する区のサポートの認知度については、「50代」が大半のサポートで他の年代と比べて高く、「10代」と「80代」は、認知が低い傾向となりました。「どれも知らない」は「10代」「20代」「80代」で4割を超えました。

(5) 区が実施している広報媒体の認知度

5. ひきこもりに関する区の実施している広報媒体について、区の広報等で見たことがあるものはありますか。

(いくつでも)

n=918		(人)
区報	430	573
チラシ	146	
ポスター	141	
リーフレット	105	
区のホームページ	67	
SNS (X、LINE、Facebook)	37	
その他	5	
どれも知らない	326	
無回答	19	



区が実施している広報媒体の認知度については、「区報」が46.8%で最も多く、次いで「どれも知らない」が35.5%、「チラシ」が15.9%、「ポスター」が15.4%、「リーフレット」が11.4%という結果となりました。

その他（5件）：主な内容

テレビ等

【クロス集計】区のサポートの認知度×区の広報媒体の認知度

n=918

(%)

			区の広報媒体の認知度								
		n	区HP	ポスター	リーフレット	チラシ	区報	SNS	その他	どれも知らない	無回答
区のサポートの認知度	ひきこもり相談窓口	442	12.2	24.2	21.9	27.4	66.3	7.0	0.2	10.6	1.1
	講演会	203	15.3	37.4	33.0	38.4	77.8	7.9	1.0	4.9	0.5
	コミュニティカフェなどの居場所	200	11.0	32.0	32.0	33.0	73.5	7.0	0.0	10.5	1.0
	当事者会や家族会での交流	183	13.1	37.7	31.1	36.1	77.0	10.4	1.1	4.4	0.5
	心理相談	156	12.8	34.0	26.9	37.2	62.8	7.7	0.6	12.2	1.9
	個別相談会	134	16.4	40.3	35.1	44.0	72.4	7.5	0.0	4.5	0.7
	社会参加活動のサポート	119	15.1	37.8	31.1	45.4	72.3	8.4	0.0	7.6	1.7
	その他	5	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0	20.0	20.0	40.0	0.0
	無回答	16	6.3	25.0	6.3	6.3	56.3	0.0	0.0	0.0	43.8
	どれも知らない	300	1.0	2.7	0.3	2.0	10.7	0.0	0.0	83.3	1.3

いずれのサポートについても広報媒体の認知度は「区報」が最も多く、「講演会」「コミュニティカフェなどの居場所」「当事者会や家族会での交流」「個別相談会」では7割を超えています。また、区の広報媒体を「どれも知らない」とした回答者では、「ひきこもり相談窓口」「心理相談」「コミュニティカフェなどの居場所」を知っている人が10%を超えており、他のサポートの認知度より高い傾向があります。

電子媒体では、「区ホームページ」が10%台、「SNS（X、LINE、Facebook）」が「当事者会や家族会での交流」を除くと1割未満と低くなっています。

【クロス集計】区の広報媒体の認知度×年代

(%)

	n	区 H P	ポ ス タ ー	リ ー フ レ ット	チ ラ シ	区 報	S N S	そ の 他	ど れ も 知 ら な い	無 回 答
全年代	918	7.3	15.4	11.4	15.9	46.8	4.0	0.5	35.5	2.1
10代	26	3.8	11.5	3.8	23.1	11.5	11.5	0.0	57.7	0.0
20代	62	1.6	17.7	4.8	11.3	21.0	6.5	0.0	54.8	1.6
30代	83	2.4	12.0	4.8	7.2	30.1	10.8	1.2	50.6	1.2
40代	112	4.5	15.2	10.7	10.7	33.9	1.8	0.9	44.6	0.9
50代	220	5.9	16.8	15.5	16.4	53.6	6.4	0.0	31.8	0.9
60代	159	6.3	15.7	20.1	20.8	54.7	1.9	0.6	25.8	1.9
70代	154	13.0	18.2	9.7	22.7	59.7	1.3	0.6	26.0	3.2
80代以上	91	14.3	8.8	3.3	11.0	53.8	0.0	1.1	35.2	6.6
無回答	11	18.2	18.2	9.1	9.1	45.5	0.0	0.0	18.2	0.0

区報の認知度は、年代に応じて高くなる傾向があり、「10代」の11.5%から始まり、「50代」からは5割を超えています。

また、区ホームページの認知度では、「20代」が最も低く、年代ごとに認知度も高くなる傾向となっています。ポスターの認知度では、「80代」を除いた年代で10%台でした。

「どれも知らない」と回答したのは「10代」が最も高く、「60代」までは年代ごとに低くなり、「70代」「80代」が微増となる傾向があります。

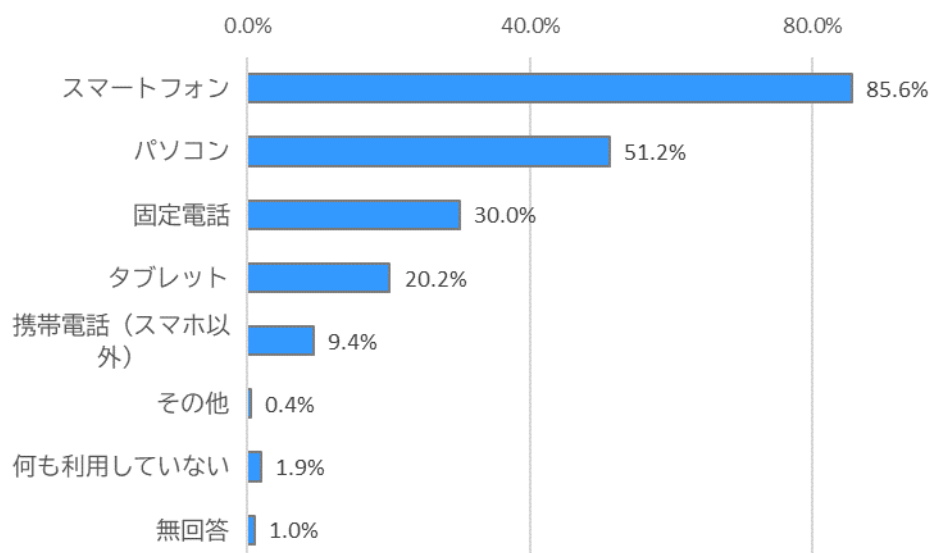
(6) 日常生活で利用している通信手段

6. 以下に挙げられた通信手段の中で、あなたが普段利用しているものは何ですか。(いくつでも)

n=918

(人)

通信手段	
スマートフォン	786
パソコン	470
固定電話	275
タブレット	185
携帯電話（スマホ以外）	86
その他	4
何も利用していない	17
無回答	9



日常生活で利用している通信手段については、「スマートフォン」が85.6%で最も多く、次いで「パソコン」が51.2%、「固定電話」が30.0%、「タブレット」が20.2%、「携帯電話（スマートフォン以外）」が9.4%という結果となりました。

その他（4件）：主な内容

友達／郵便 等

【クロス集計】日常生活で利用している通信手段×年代

(%)

	n	スマホ	(スマホ以外) 携帯電話	パソコン	タブレット	固定電話	その他	何も利用していない	無回答
全年代	918	85.6	9.4	51.2	20.2	30.0	0.4	1.9	1.0
10代	26	96.2	0.0	57.7	46.2	11.5	0.0	0.0	0.0
20代	62	96.8	0.0	61.3	25.8	4.8	0.0	1.6	0.0
30代	83	96.4	1.2	57.8	24.1	3.6	0.0	0.0	1.2
40代	112	94.6	3.6	63.4	28.6	15.2	0.0	0.0	0.0
50代	220	90.0	9.1	62.3	25.5	31.8	0.5	1.8	0.0
60代	159	93.7	3.8	53.5	17.0	33.3	0.6	0.0	1.3
70代	154	77.3	18.8	40.3	9.1	46.8	0.0	1.9	0.6
80代	91	46.2	25.3	12.1	6.6	56.0	2.2	9.9	5.5
無回答	11	63.6	27.3	27.3	18.2	27.3	0.0	0.0	0.0

日常生活で利用している通信手段については、「スマートフォン」が「80代」を除く年代で最も高く、「10代」から「60代」では9割を超えていました。一方「80代」の「スマートフォン」の利用は5割を下回り、最も利用されている通信手段は、「固定電話」で5割を超えました。「パソコン」は「10代」から「60代」で5割を超えていました。

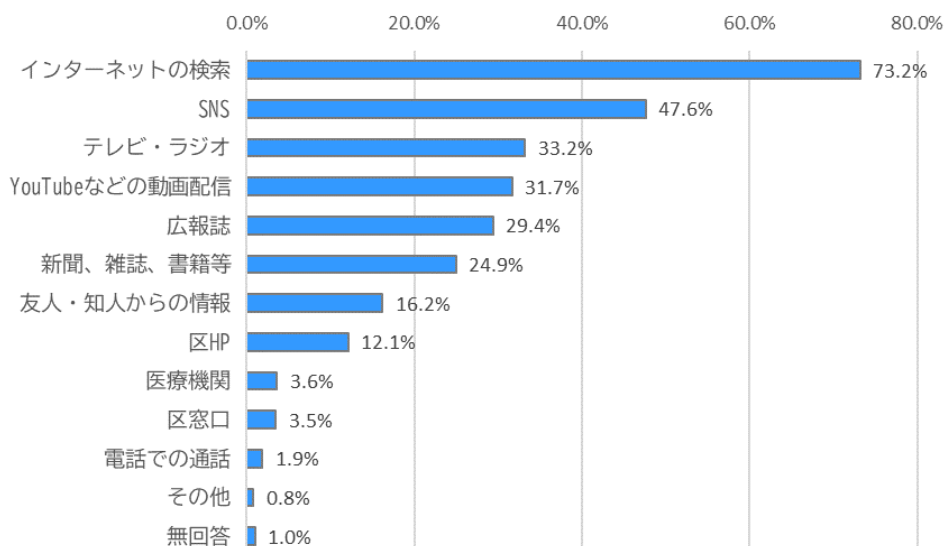
「何も利用していない」は「80代」で最も多く約1割でした。

(7) 日常生活で利用している情報収集手段

7. 以下に挙げられた情報収集手段の中で、あなたが普段利用しているものを上位3つまでお選びください。（3つまで）

n=918 (人)

情報収集手段	
インターネットの検索サイト	672
SNS	437
テレビ・ラジオ	305
YouTubeなどの動画配信	291
広報誌	270
新聞、雑誌、書籍等	229
友人・知人からの情報	149
区HP	111
医療機関	33
区窓口	32
電話での通話	17
その他	7
無回答	9



日常生活で利用している情報収集手段については、「インターネットの検索サイト（Googleなど）」が73.2%で最も多く、次いで「SNS（X、LINE、Facebook、Instagramなど）」が47.6%、「テレビ・ラジオ」が33.2%、「YouTubeなどの動画配信」が31.7%、「広報誌（区報等自治体からのお知らせ）」が29.4%という結果となりました。

その他（7件）：主な内容

街中の掲示板／学校で配布されるチラシ／手紙／LINE友達／学校の先生からの情報 等

【クロス集計】 日常生活で利用している情報収集手段×年代

(%)

	n	インターネットの検索サイト	SNS	YouTubeなどの動画配信	区HP	広報誌	区窓口	医療機関	新聞・雑誌・書籍等	テレビ・ラジオ	友人・知人からの情報	電話での通話	その他
全年代	918	73.2	47.6	31.7	12.1	29.4	3.5	3.6	24.9	33.2	16.2	1.9	0.8
10代	26	84.6	88.5	80.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	3.8	0.0	0.0
20代	62	91.9	87.1	69.4	4.8	4.8	1.6	1.6	4.8	8.1	14.5	0.0	0.0
30代	83	95.2	72.3	49.4	7.2	14.5	1.2	1.2	9.6	9.6	3.6	1.2	1.2
40代	112	83.9	59.8	37.5	15.2	23.2	1.8	3.6	15.2	20.5	14.3	0.0	0.9
50代	220	88.6	54.5	30.0	14.5	23.6	3.6	4.5	18.2	30.5	12.7	1.8	0.9
60代	159	78.0	43.4	30.2	8.8	36.5	1.9	3.8	28.9	44.7	13.2	1.9	0.6
70代	154	52.6	20.1	17.5	13.0	43.5	6.5	4.5	42.2	51.3	28.6	1.3	0.0
80代	91	16.5	9.9	1.1	16.5	51.6	7.7	4.4	49.5	45.1	27.5	6.6	2.2
無回答	11	45.5	36.4	18.2	27.3	45.5	0.0	0.0	45.5	45.5	18.2	9.1	0.0

情報収集手段については、通信媒体の「インターネットの検索サイト」が「20代」「30代」で9割を超え、「10代」「40代」「50代」で8割を超えました。「SNS」、「YouTubeなどの動画配信」については、「10代」が最も高く、年齢が高くなるとともに割合が低くなる傾向があります。なお、「SNS」と「YouTubeなどの動画配信」では、どの年齢においても「SNS」の方が高い結果となりました。

一方、紙媒体の「広報誌」「新聞・雑誌・書籍等」については、「80代」が最も高く、年齢が低くなるとともに割合も低くなる傾向があります。

人的媒体の「医療機関」では5%未満であり、また、「区窓口」「電話での通話」も相対的に低い傾向にあります。

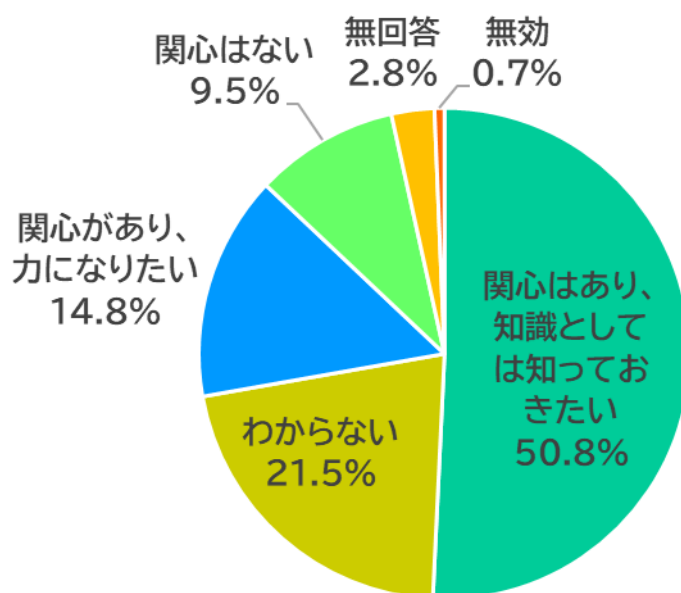
(8) ひきこもり支援への関心度

8. ひきこもりの方へのサポートについてご自身が関わってみたい、役に立ちたいなどの思いがありますか。

n=918

(人)

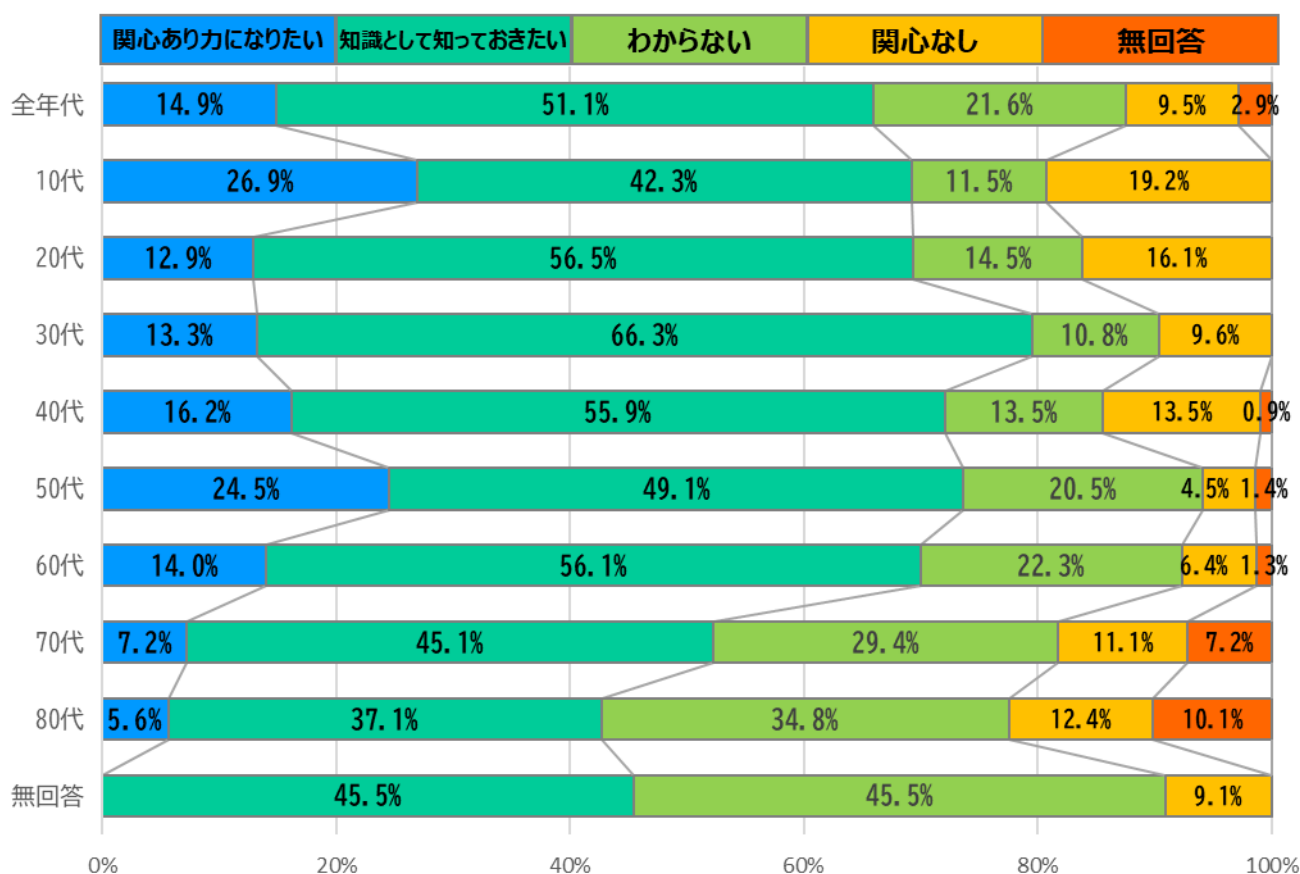
関心はあり、知識としては知っておきたい	466
わからない	197
関心があり、力になりたい	136
関心はない	87
無回答	26
無効	6



ひきこもり支援への関心度については、「関心はあり、知識としては知っておきたい」が50.8%で最も多く、次いで「わからない」が21.5%、「関心があり、力になりたい」が14.8%、「関心はない」が9.5%という結果となりました。「関心はあり、知識としては知っておきたい」と「関心があり、力になりたい」を合わせると3分の2の人が関心がある結果となりました。

【クロス集計】 ひきこもり支援への関心度×年代

n=918



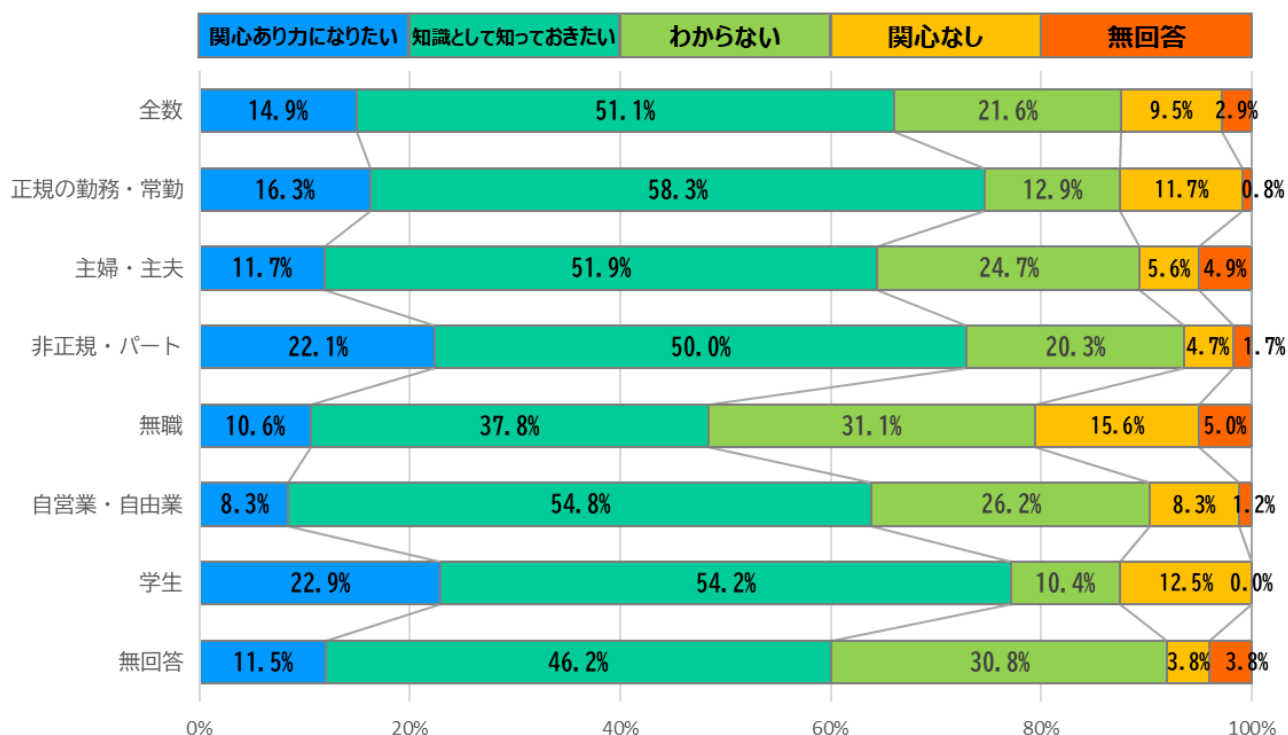
年代別では、ひきこもり支援への関心度のうち「関心があり、力になりたい」と回答したのは、最も多かったのが「10代」で26.9%、次いで「50代」が24.5%、「40代」が16.2%となりました。

一方、「関心がない」との回答は「10代」が19.2%、「20代」が16.1%と年齢が低いほど関心も低い結果となりました。

「関心はあり、知識としては知っておきたい」については、80代を除いた他の年代で4割～6割の回答となりました。このうち、「30代」については、積極的に「関心があり、力になりたい」回答は少ないものの、「関心はあり、知識としては知っておきたい」の回答は多い結果となりました。

【クロス集計】 ひきこもり支援への関心度×就労状況

n=918



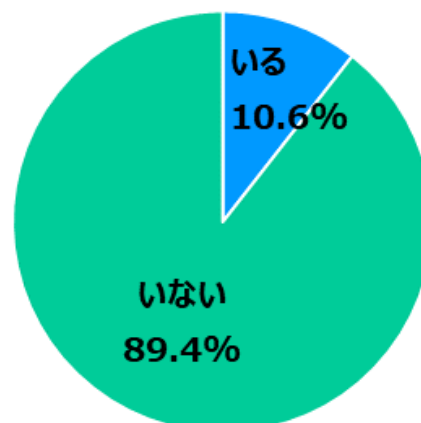
回答者の就労状況別では、ひきこもり支援への関心度のうち「関心があり、力になりたい」の回答が最も多かったのは「学生」で22.9%、次いで「非正規・パート」が22.1%、「正規の勤務・常勤」が16.3%となりました。

一方、「関心はない」の回答が最も多かったのは「無職」で15.6%、次いで「学生」が12.5%、「正規の勤務・常勤」が11.7%となりました。

(9) ひきこもり状態にある方の有無

9. あなたご自身やあなたのご家族に現在ひきこもり状態にある方がいますか。

n=918	(人)
いる	97
いない	821

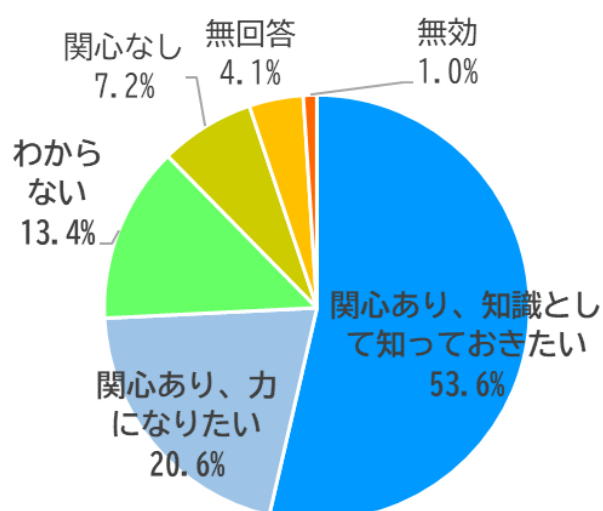


ひきこもり本人等としての該当の有無については、「いない」が89.4%で、「いる」が10.6%という結果となりました。全回答者の1割がひきこもり本人等であり、本設問以降の調査については、「いる」と回答した97名から本人や家族等についての回答を得ました。

【比較】 ひきこもり状態にある方の有／無 × ひきこもり支援への関心度

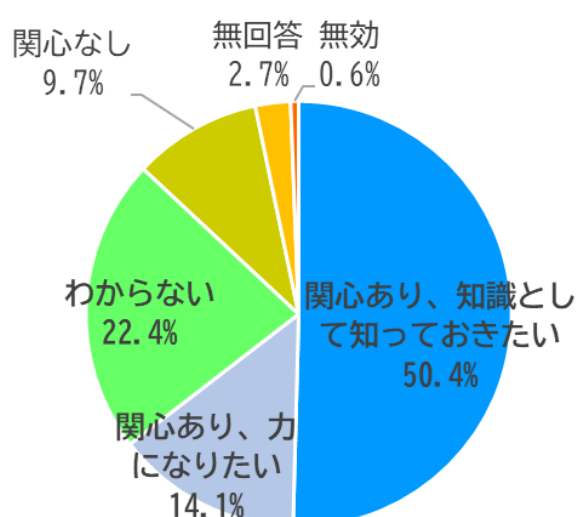
ひきこもり状態にある方がいる

n = 97



ひきこもり状態にある方がいない

n = 821



「関心があり、知識として知っておきたい」「関心があり、力になりたい」を合わせた割合は、家族にひきこもり状態にある方が「いる（ひきこもり本人等）」回答が約4分の3（74.2%）、「いない」回答が約3分の2（64.5%）でした。また、「わからない」と回答した方は、ひきこもり本人等が13.4%だった一方、「いない」方は22.4%となりました。

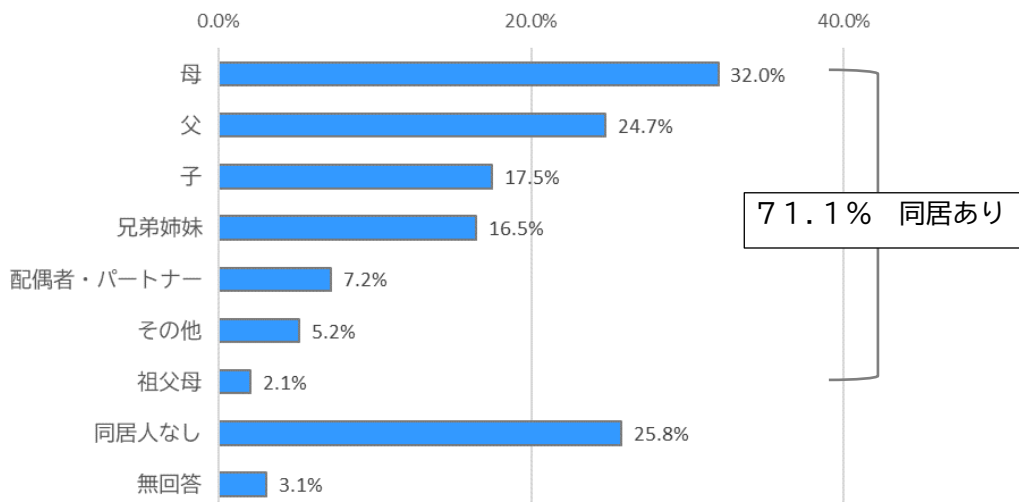
3 ひきこもり本人及び家族等について（ひきこもり本人等回答）

- ・ ひきこもり本人等回答（n = 97）とは、問9でひきこもり状態にある方が「いる」と回答した方
- ・ ひきこもり本人等回答（n = 97）＝本人自身の回答（n = 25）＋家族等の回答（n = 72）

（1） ひきこもり本人の同居の状況

10. ひきこもり状態にある方と同居している方をお答えください。（いくつでも）

同居者	(人)
母	31
同居人なし	25
父	24
子	17
兄弟姉妹	16
配偶者・パートナー	7
その他	5
祖父母	2
無回答	3



ひきこもり本人の同居の状況については、「母」が32.0%で最も多く、次いで「同居している人はいない」が25.8%、「父」が24.7%、「子」が17.5%、「兄弟姉妹」が16.5%、「配偶者・パートナー」が7.2%、「祖父母」が2.1%という結果となりました。

また、ひきこもり本人の7割以上が同居している結果となりました。

その他（5件）：主な内容

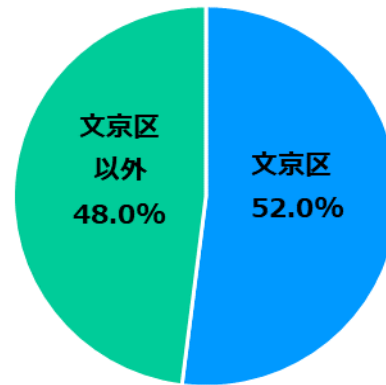
孫／姪 等

(2) ひきこもり本人の居住地

11. 上記の質問に「同居している人はいない」とお答えになった方にお聞きます。
その方はどちらにお住まいですか。

「同居している人はいない」25人の内訳

文京区	13
文京区以外	12



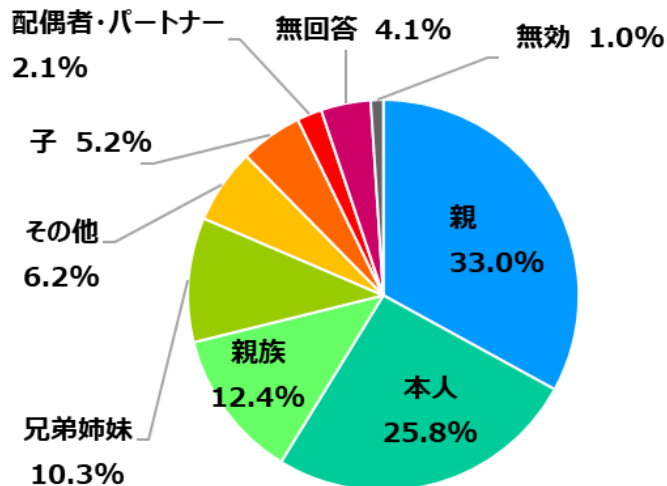
回答者と同居していないひきこもり本人の居住地は、「文京区」が52.0%、「文京区以外」が48.0%という結果となりました。親族が文京区に居住し、ひきこもり本人も単身の別世帯として文京区に居住している方が5割程度いました。

(3) 回答者とひきこもり本人の関係性

12. ひきこもり状態にある方から見て、あなたはどのようなお立場ですか。

n=97 (人)

親	32
本人	25
親族	12
兄弟姉妹	10
その他	6
子	5
配偶者・パートナー	2
無回答	4
無効	1



回答者とひきこもり本人の関係性については、「親」が33.0%で最も多く、次いで「本人」が25.8%、「親族」が12.4%、「兄弟姉妹」が10.3%、「子」が5.2%という結果となりました。

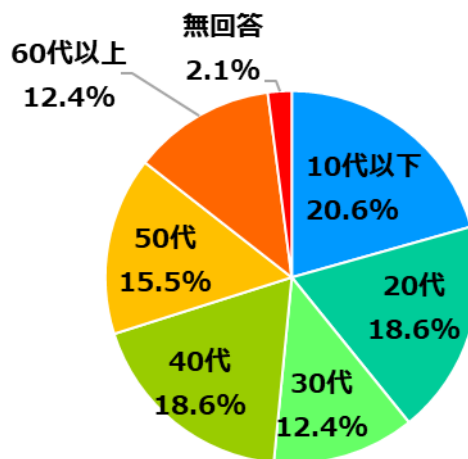
その他（6件）：主な内容

知人／友人／叔父／姪／従妹 等

(4) ひきこもり本人の年代

13. ひきこもり状態にある方の年代をお答えください。

n=97	(人)
10代以下	20
20代	18
30代	12
40代	18
50代	15
60代以上	12
無回答	2



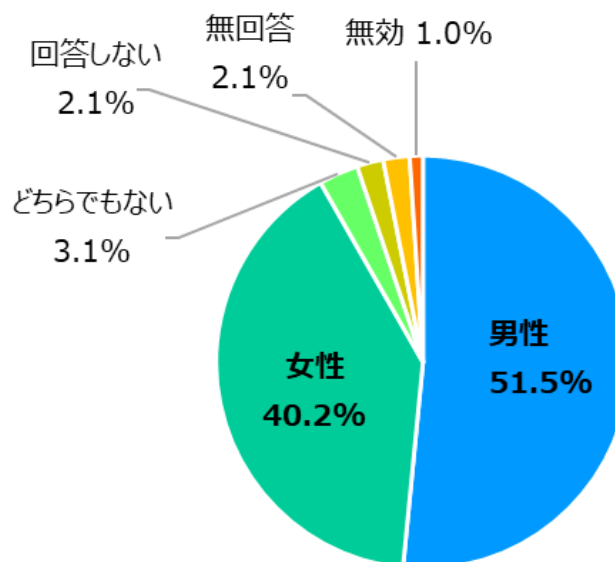
ひきこもり本人の年代については、最も多かったのが「10代以下」で20.6%、次いで「20代」と「40代」が18.6%、「50代」が15.5%、「30代」と「60代」が12.4%でした。

(5) ひきこもり本人の性別

14. ひきこもり状態にある方の性別をお答えください。

n=97 (人)

男性	50
女性	39
どちらでもない	3
回答しない	2
無回答	2
無効	1



ひきこもり本人の性別については、「男性」が約5割、次いで「女性」が約4割、「どちらでもない」が3.1%、「回答しない」が2.1%でした。

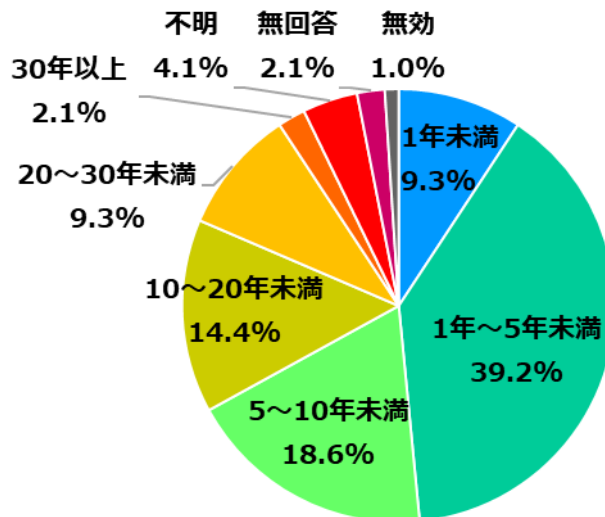
(6) ひきこもり状態の期間

15. ひきこもり状態となって、どのくらい経ちますか。

n=97

(人)

1年未満	9
1年～5年未満	38
5～10年未満	18
10～20年未満	14
20～30年未満	9
30年以上	2
不明	4
無回答	2
無効	1

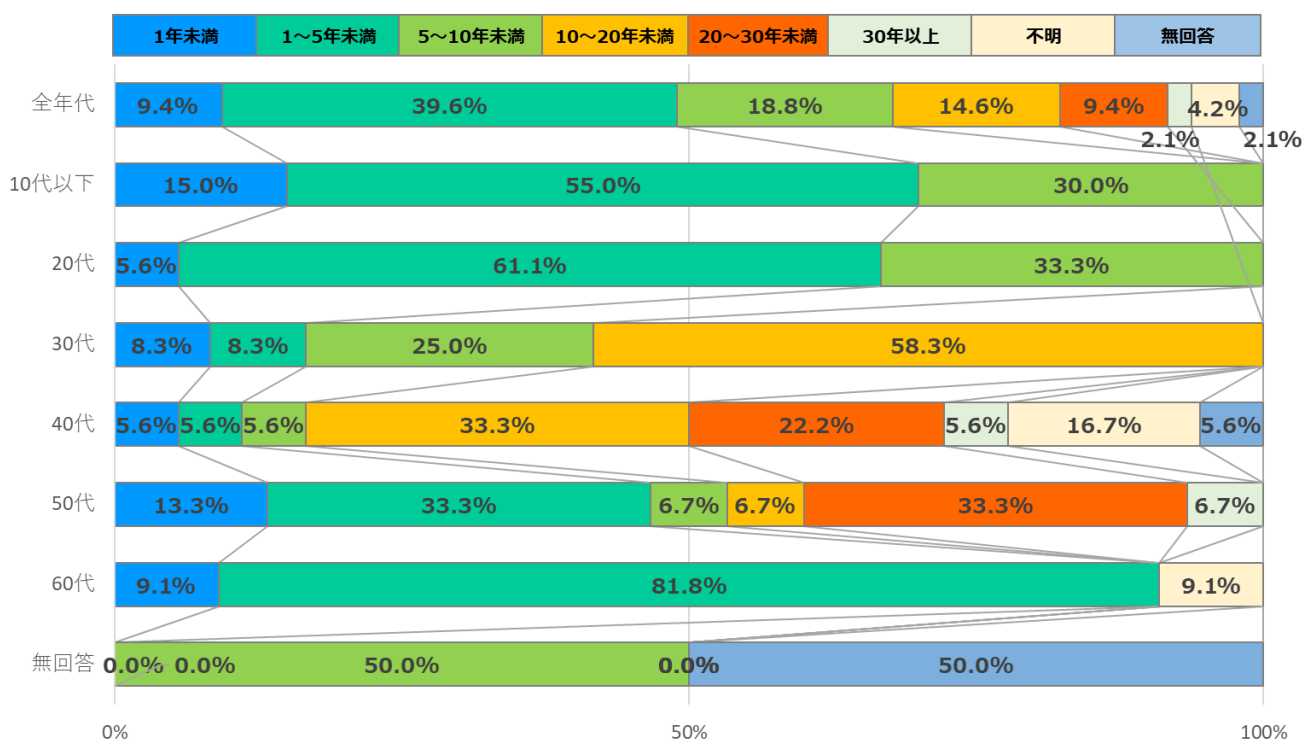


ひきこもり状態の期間については、「1～5年未満」が39.2%で最も多く、次いで「5～10年未満」が18.6%、「10～20年未満」が14.4%、「1年未満」「20～30年未満」が9.3%、「30年以上」が2.1%でした。

また、5年未満（「1年未満」と「1～5年未満」の合計）が全体の約半分となっています。

【クロス集計】 ひきこもり期間×年代

n=97



n=97

(%)

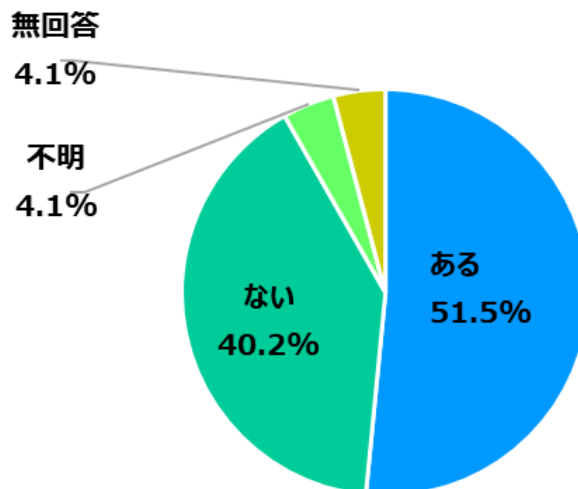
	1年未満	1年～5年未満	5年～10年未満	10年～20年未満	20年～30年未満	30年以上	不明	無回答
全年代	9.4	39.6	18.8	14.6	9.4	2.1	4.2	2.1
10代以下	15.0	55.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代	5.6	61.1	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30代	8.3	8.3	25.0	58.3	0.0	0.0	0.0	0.0
40代	5.6	5.6	5.6	33.3	22.2	5.6	16.7	5.6
50代	13.3	33.3	6.7	6.7	33.3	6.7	0.0	0.0
60代	9.1	81.8	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
無回答	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

年代別のひきこもり状態の期間については、50代までは年代に応じて長期化する傾向がありますが、50代以上では改めて「1～5年未満」の割合が高くなっています。

(7) ひきこもり本人の就労経験の有無

16. ひきこもり状態にある方について、就労経験がありますか。

n=97	(人)
ある	50
ない	39
不明	4
無回答	4



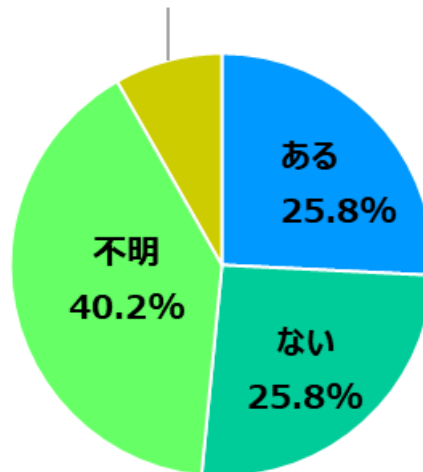
ひきこもり本人の就労経験の有無については、「ある」が約5割、「ない」が約4割でした。

(8) ひきこもり本人の就労への意欲

17. ひきこもり状態にある方について現在、働きたいという思いがありますか。

n=97	(人)
ある	25
ない	25
不明	39
無回答	8

無回答 8.2%

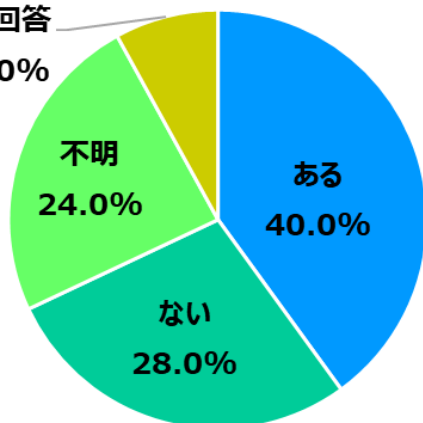


ひきこもり本人の就労意欲については、「不明」が40.2%と最も多く、「ある」と「ない」が25.8%と同率の結果となりました。

【参考】 働きたいという思いがありますか。(ひきこもり本人自身回答)

n=25	(人)
ある	10
ない	7
不明	6
無回答	2

無回答 8.0%

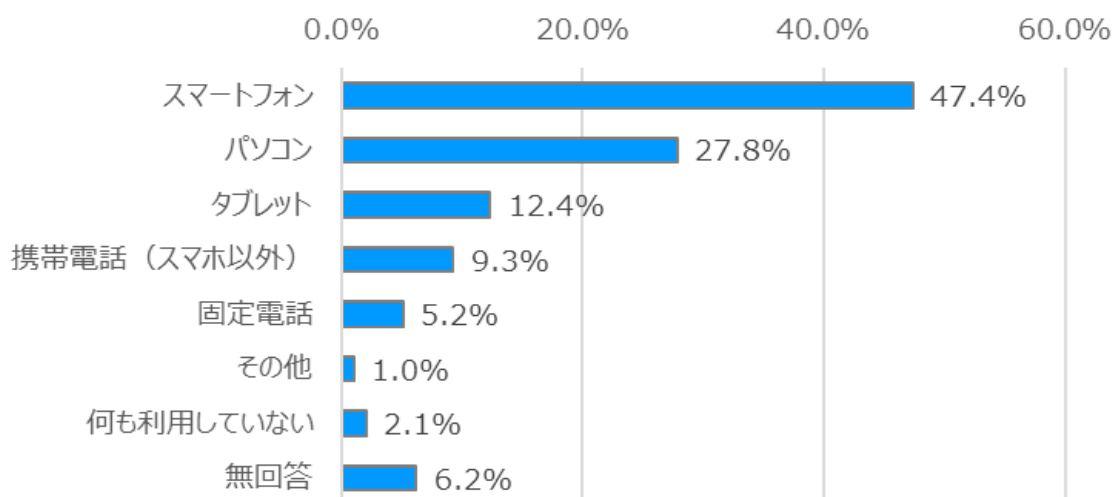


ひきこもり本人自身回答では、就労意欲が「ある」が40.0%となり、家族等を含めた回答(25.8%)よりも高い割合となりました。

(9) ひきこもり本人が利用する通信手段

18. 以下に挙げられた通信手段の中で、ひきこもり状態にあるご本人がふだん利用しているものは何ですか。

n=97	(人)
スマートフォン	46
携帯電話（スマホ以外）	9
パソコン	27
タブレット	12
固定電話	5
その他	1
何も利用していない	2
無回答	6



ひきこもり本人が利用する通信手段は、「スマートフォン」が47.4%で最も多く、次いで「パソコン」が27.8%、「タブレット」が12.4%、「携帯電話（スマートフォン以外）」が9.3%、「固定電話」が5.2%、「何も利用していない」が2.1%という結果となり、5割を超える回答はありませんでした。

【比較】日常生活で利用している通信手段（設問６・設問１８）
ひきこもり本人等回答・ひきこもり本人以外回答

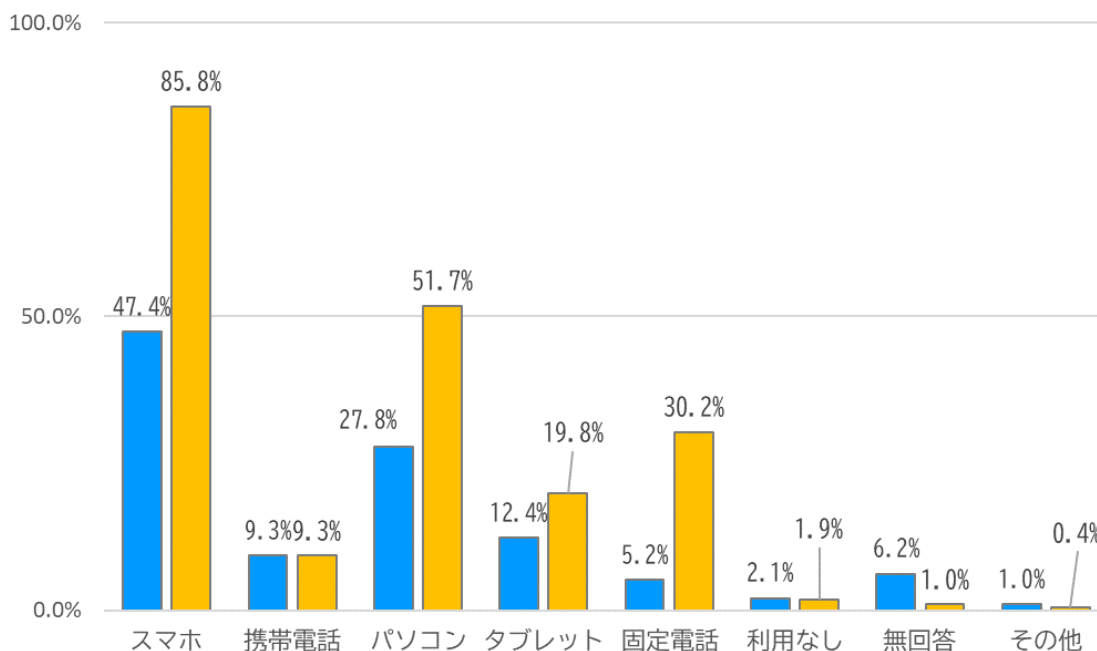
※設問６と設問１８の質問内容、回答項目は、同一です。

設問６は調査回答者に対して、設問１８はひきこもり本人自身について、質問しています。回答者がひきこもり本人自身である場合、「（設問６で）すでにお答え頂いているため回答は不要です」とし、重複回答を防いでいます。

問１８／ひきこもり本人等回答（ $n=97$ ）＝本人自身の回答（ $n=25$ ）＋ 家族等の回答（ $n=72$ ）

問６／ひきこもり本人以外回答（ $n=893$ ）＝全体回答（ $n=918$ ）－本人自身の回答（ $n=25$ ）

	問18ひきこもり本人等(n=97)		問6ひきこもり本人以外(n=893)	
	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)
スマートフォン	46	47.4	766	85.8
携帯電話（スマホ以外）	9	9.3	83	9.3
パソコン	27	27.8	462	51.7
タブレット	12	12.4	177	19.8
固定電話	5	5.2	270	30.2
その他	1	1.0	4	0.4
何も利用していない	2	2.1	17	1.9
無回答	6	6.2	9	1.0

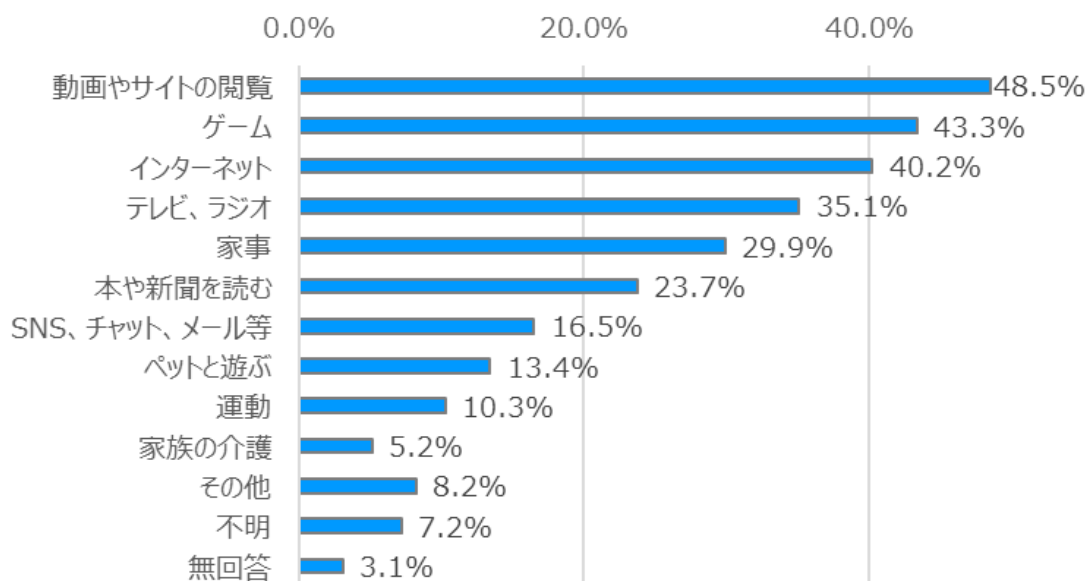


日常生活で利用している通信手段のうち「スマートフォン」「パソコン」「固定電話」については、ひきこもり本人等回答より、ひきこもり本人以外回答の割合が高くなっています。

(10) ひきこもり本人の自宅での過ごし方

19. ひきこもり状態にあるご本人が自宅でよくしていることは何ですか。(いくつでも)

n=97	(人)
動画やサイトの閲覧	47
ゲーム	42
インターネット	39
テレビ、ラジオ	34
家事	29
本や新聞を読む	23
SNS、チャット、メール等	16
ペットと遊ぶ	13
運動	10
家族の介護	5
その他	8
不明	7
無回答	3



ひきこもり本人の自宅での過ごし方は、「動画やサイトの閲覧」が48.5%で最も多く、次いで「ゲーム」が43.3%、「インターネット」が40.2%、「テレビ、ラジオ」が35.1%、「家事」が29.9%、という結果となり、5割を超える回答はありませんでした。

その他（8件）：主な内容

ゲーム製作／子や夫の世話／家の中の清掃／ドライブ／プラモデル／音楽／考える／寝る

【クロス集計】 ひきこもり本人の自宅での過ごし方×年齢

	n	インターネット	動画やサイトの閲覧	ゲーム	テレビ、ラジオ	SNS、チャット、メール等	本や新聞を読む	家事	家族の介護	運動	ペットと遊ぶ	その他	不明	無回答
全年代	97	40.2	48.5	43.3	35.1	16.5	23.7	29.9	5.2	10.3	13.4	8.2	7.2	3.1
10代以下	20	45.0	70.0	70.0	5.0	35.0	5.0	0.0	0.0	0.0	25.0	5.0	10.0	0.0
20代	18	55.6	72.2	72.2	33.3	33.3	33.3	22.2	11.1	5.6	27.8	5.6	0.0	5.6
30代	12	66.7	75.0	50.0	25.0	25.0	16.7	33.3	0.0	16.7	8.3	8.3	8.3	0.0
40代	18	38.9	38.9	22.2	44.4	0.0	22.2	44.4	0.0	5.6	11.1	16.7	5.6	0.0
50代	15	13.3	20.0	13.3	60.0	0.0	33.3	46.7	13.3	33.3	0.0	6.7	20.0	6.7
60代	12	16.7	8.3	16.7	58.3	0.0	25.0	33.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
無回答	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

ひきこもり本人の自宅での過ごし方では、「30代」までは「動画やサイトの閲覧」「ゲーム」が多い傾向があります。「テレビ・ラジオ」は「40代」以上の各年代で最も多い回答となり、「50代」「60代」では約6割という結果になりました。

「SNS等」は、「30代」以上の利用はありませんでした。

「40代」「50代」では、4割以上が「家事」を行っており、「ペットと遊ぶ」は「10代」「20代」で2割を超えました。

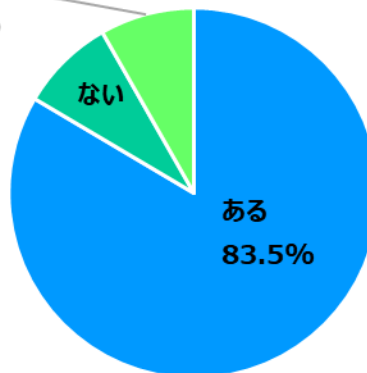
(11) ひきこもり本人について回答者の不安

20. ひきこもり状態にあるご本人について、あなたが気になっていることや不安なことはありますか。

n=97 (人)

ある	81
ない	8
無回答	8

無回答
8.2%

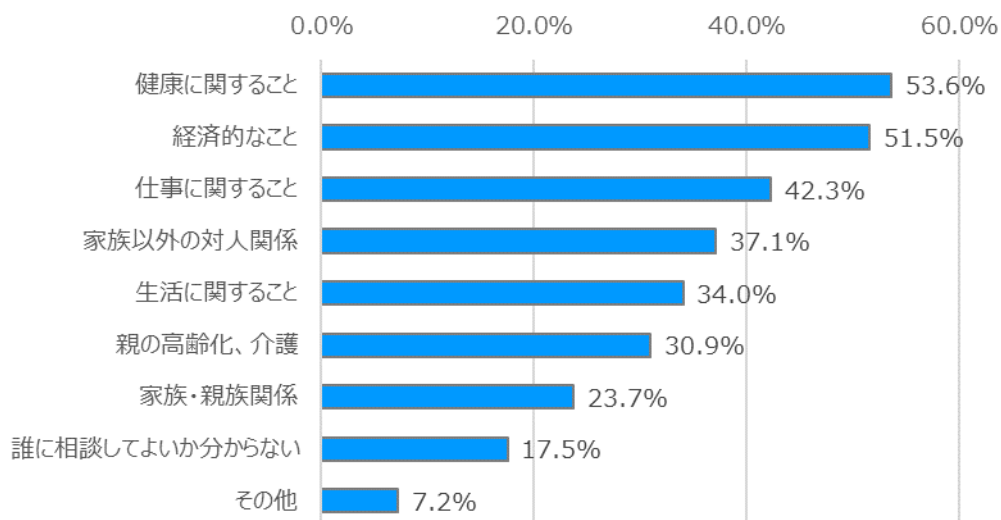


不安なことが「ある」場合、それはどのようなことですか

n=81

(人)

健康に関すること	52
経済的なこと	50
仕事に関すること	41
家族以外の対人関係	36
生活に関すること	33
親の高齢化、介護	30
家族・親族関係	23
誰に相談してよいか分からない	17
その他	7



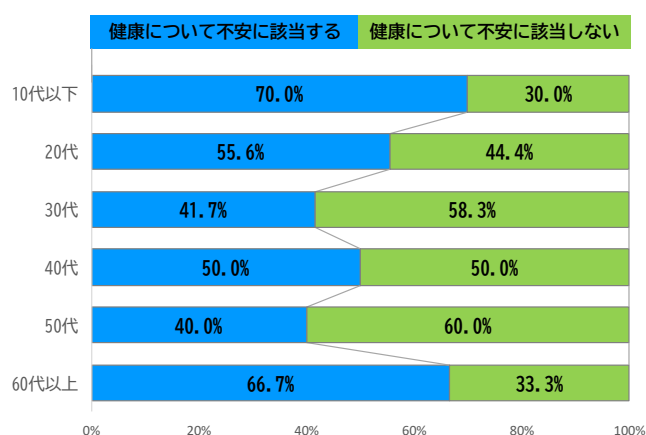
ひきこもり本人について気になっていることは、最も多かったのが「健康に関すること」で53.6%、次いで「経済的なこと」が51.5%、「仕事に関すること」が42.3%、「家族以外の対人関係」が37.1%、「生活に関すること」が34.0%、「親の高齢化、介護」が30.9%、「家族・親族関係のこと」が23.7%、「誰に相談してよいかわからないこと」が17.5%でした。

その他（7件）：主な内容

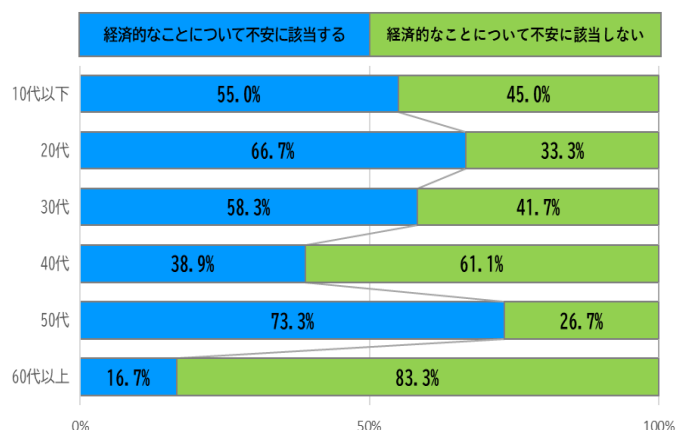
今後のこと／人や社会と接することができない／本人の未来／相談しようとする意志がない／部屋が散らかり放題／友人がいないこと／精神状態が悪く苦しんでいるのに援助できないこと

【クロス集計】 気になっている内容や不安なこと（上位3つ）×年齢

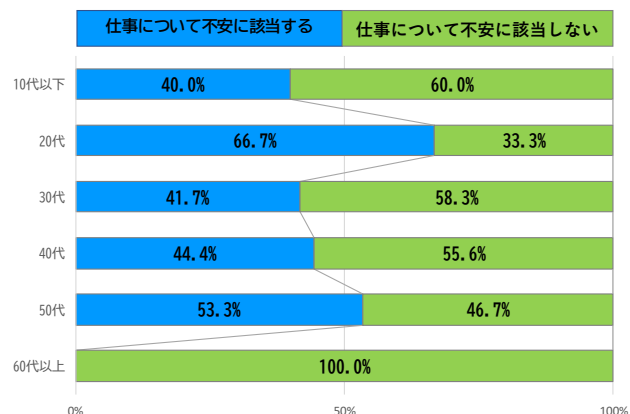
健康に関すること（n=52）



経済的なこと（n=50）



仕事に関すること（n=41）



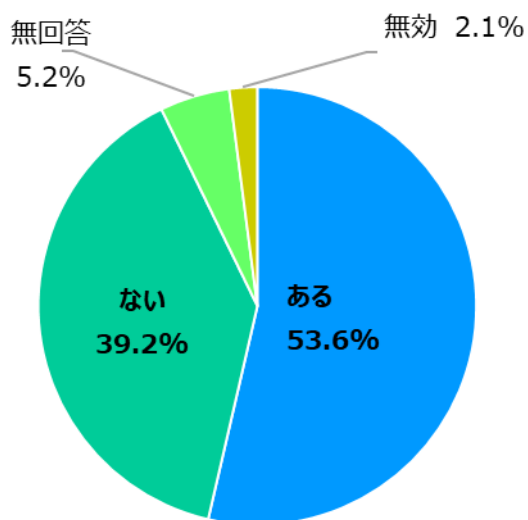
※健康に関すること（n=52）、経済的なこと（n=50）、仕事に関すること（n=41）のいずれも年代の無回答者はいませんでした。

ひきこもり本人について気になっていることの回答のうち、上位3つについて年代別にみると、最も多かったのは、「健康に関すること」は「10代」が70.0%、「経済的なこと」は「50代」で73.3%、「仕事に関すること」は「20代」で66.7%でした。

(12-1) ひきこもりについての相談の有無

21. 今までひきこもりについてどこかに相談したことがありますか。

n=97	(人)
ある	52
ない	38
無回答	5
無効	2



ひきこもりについての相談の有無については、「ある」が約5割、「ない」が約4割でした。

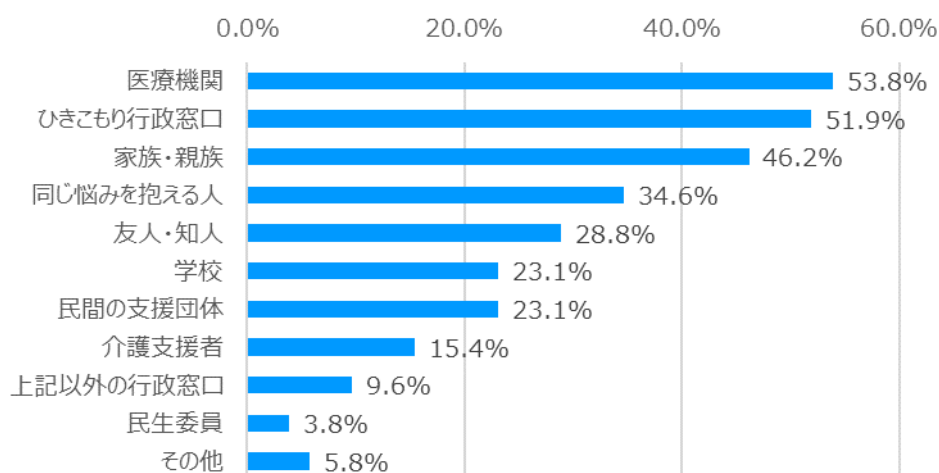
(12-2) ひきこもりについて相談をした方の相談場所

今までひきこもりについてどこかに相談したことがありますか？（いくつでも）

n=52

(人)

相談場所	
医療機関	28
ひきこもり行政窓口	27
家族・親族	24
同じ悩みを抱える人	18
友人・知人	15
学校	12
民間の支援団体	12
介護支援者	8
上記以外の行政窓口	5
民生委員	2
その他	3



相談したことが「ある」と回答した52人の具体的な相談場所としては、「医療機関」が53.8%で最も多く、次いで「ひきこもり行政窓口」が51.9%、「家族・親族」が46.2%、「同じ悩みを抱える人」が34.6%、「友人・知人」が28.8%、「学校」が23.1%、「民間の支援団体」が23.1%、「介護支援者」が15.4%、「上記以外の行政窓口」が9.6%、「民生委員」が3.8%という結果となりました。

その他（3件）：主な内容

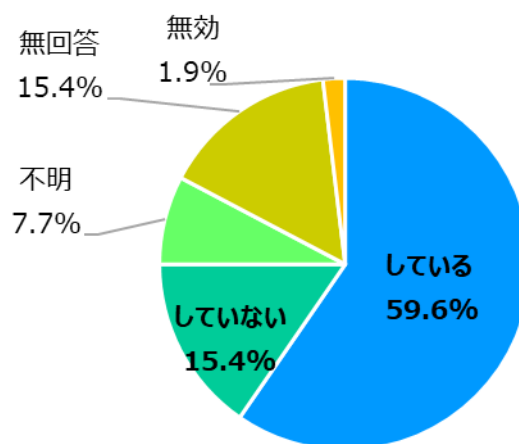
区役所 等

(12-3) ひきこもりについて相談をした方の相談の継続状況

「ある」とお答えになった方にお聞きします。相談は継続していますか。

n=52 (人)

している	31
していない	8
不明	4
無回答	8
無効	1



ひきこもりについて相談をした52人の相談の継続については、「している」が59.6%、「していない」が15.4%でした。

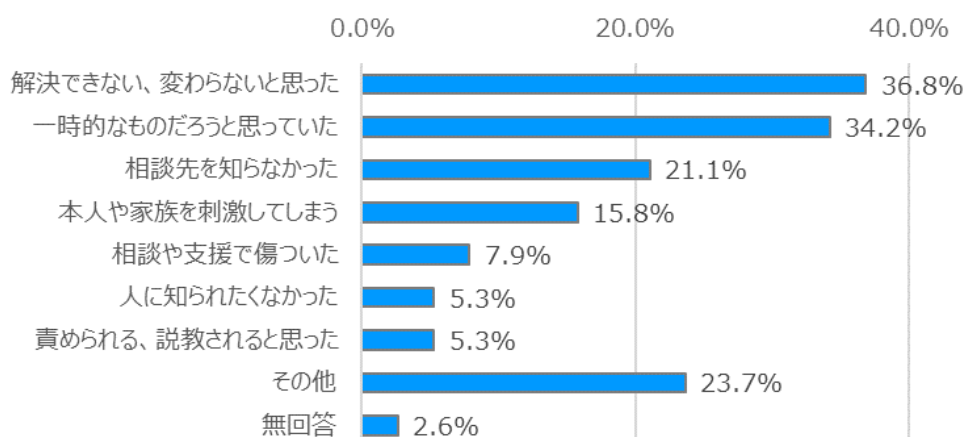
(12-4) ひきこもりについて相談をしたことがない方の理由

相談したことが「ない」理由を教えてください。(いくつでも)

n=38

(人)

解決できない、変わらないと思った	14
一時的なものだろうと思っていた	13
相談先を知らなかった	8
本人や家族を刺激してしまう	6
相談や支援で傷ついた	3
人に知られたくなかった	2
責められる、説教されと思った	2
その他	9
無回答	1



相談したことが「ない」と回答した38人の理由としては、最も多かったのが「相談しても解決できない、何も変わらないと思った」で36.8%、次いで「この状態は一時的なものだろうと思っていた」が34.2%、「相談先を知らなかった」が21.1%、「相談すると本人や家族を刺激してしまうのではないかと考えた」が15.8%、「過去の別の相談や支援で傷ついた経験がある」が7.9%、「ひきこもり状態であることを人に知られたくなかった」、「責められる、説教されと思った」が5.3%という結果となりました。

その他(9件)：主な内容

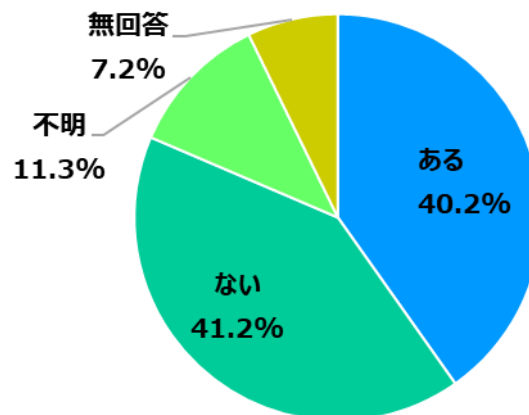
必要がない／不眠症から老人性うつになってよい方向へ向かっている／待つことも大切と思った／
刺激を与えるとその反動で余計ひきこもりやすくなる／信頼できる相談先がない／
甥なので責任が持てない

(13) ひきこもり以外の困りごとでの相談の有無

22. ひきこもり以外の困りごとについて相談したことがありますか。

n=97 (人)

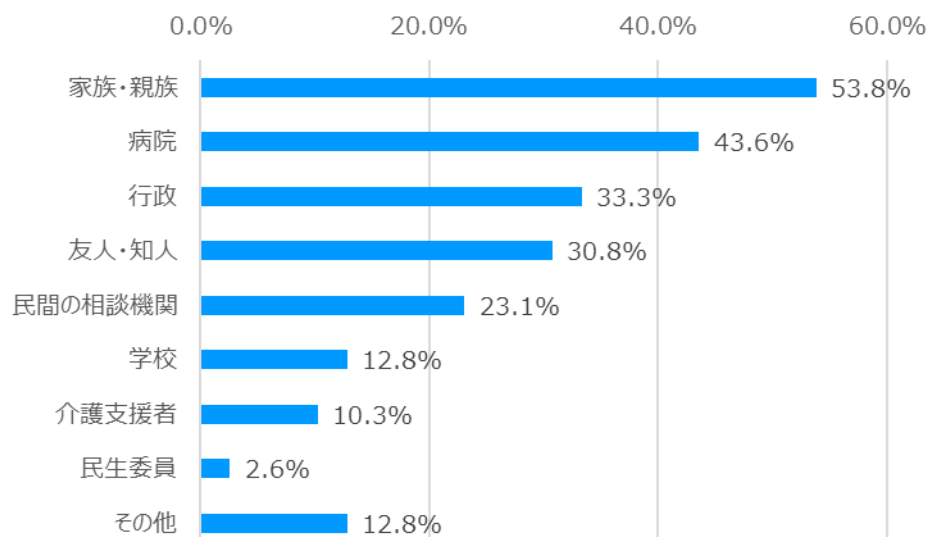
ある	39
ない	40
不明	11
無回答	7



相談歴がある場合の相談先 (いくつでも)

n=39 (人)

相談先	人数
家族・親族	21
病院	17
行政	13
友人・知人	12
民間の相談機関	9
学校	5
介護支援者	4
民生委員	1
その他	5



ひきこもり以外の困りごとについて相談したことが「ある」と回答した39人の相談先は、「家族・親族」が53.8%で最も多く、次いで「病院」が43.6%、「行政」が33.3%、「友人・知人」が30.8%となっています。

その他(5件): 主な内容

子どもの通う保育園／警察／弁護士／塾の先生／B型事業所の職員

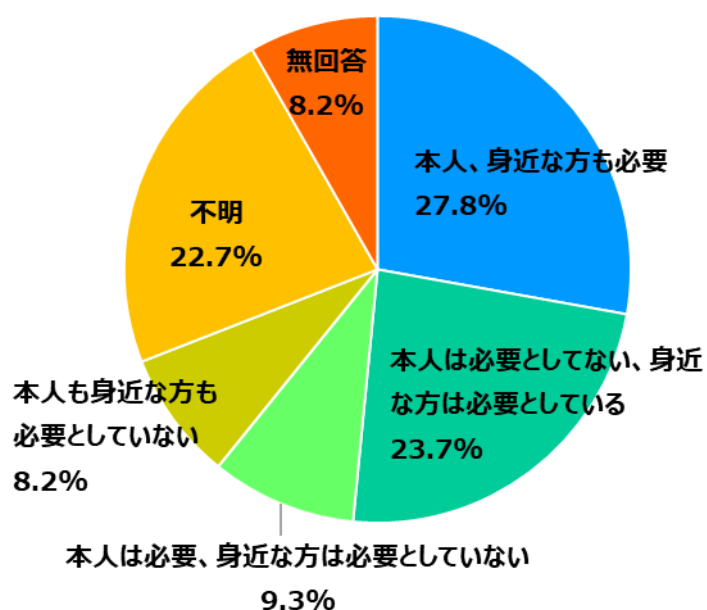
(14) ひきこもり本人や家族等の支援についての考え

23. ひきこもり状態にある方やその身近にいる方は支援を必要と感じていますか。

n=97

(人)

本人、身近な方も必要	27
本人は必要としてない、身近な方は必要としている	23
本人は必要、身近な方は必要としていない	9
本人も身近な方も必要としていない	8
不明	22
無回答	8



支援の必要性については、「本人も身近な人も必要としている」が27.8%で最も多く、次いで「本人は必要としていないが、身近な人は必要としている」が23.7%、「本人は必要としているが、身近な人は必要としていない」が9.3%、「本人も身近な人も必要としていない」が8.2%となりました。

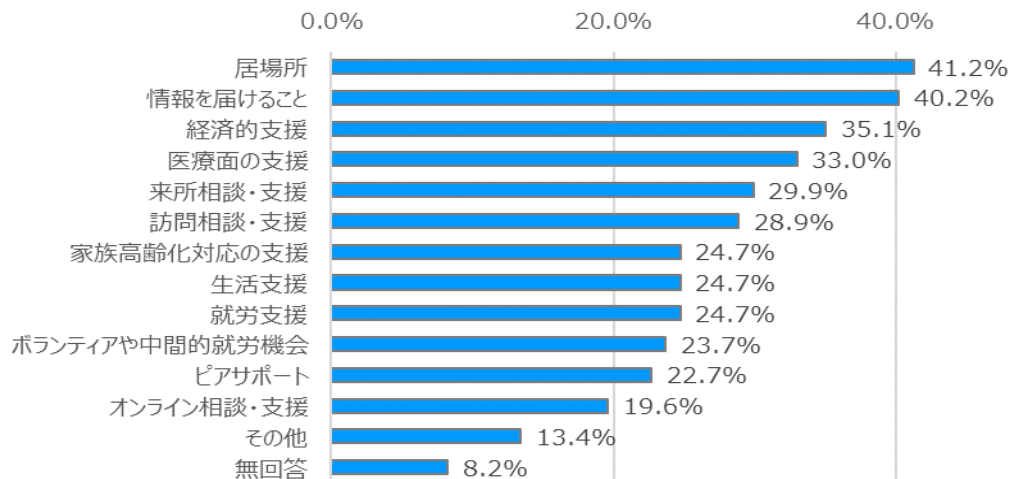
(15) ひきこもり本人が必要とする支援

24. 「ひきこもり状態にある方」が必要とする支援は何だと思いますか。(いくつでも)

n=97

(人)

本人が利用できる居場所	40
ひきこもり支援に関する情報を届けること	39
経済的支援	34
医療面の支援	32
本人への来所相談・支援	29
本人への訪問相談・支援	28
家族の高齢化に対応した支援	24
生活支援	24
就労支援	24
段階的に社会参加できるボランティアや中間的就労の機会	23
ピアサポート（本人、経験者との交流）	22
オンライン相談・支援	19
その他	13
無回答	8



ひきこもり本人が必要とする支援については、「居場所」が41.2%で最も多く、次いで「情報を届けること」が40.2%、「経済的支援」が35.1%、「医療面の支援」が33.0%、「来所相談・支援」29.9%、「訪問相談・支援」28.9%となり、5割を超える回答はありませんでした。

その他（13件）：主な内容

利害関係のない親身になって相談に乗ってくださる人／ルームシェア関係／進学・学習／支援は不要
周囲のハラスメントをなくすこと／人権 等

【クロス集計】 ひきこもり本人が必要とする支援×年齢

	n	情報を届けること	来所相談・支援	オンライン相談・支援	訪問相談・支援	居場所	ピアサポート	家族高齢化対応の支援	生活支援	経済的支援	ボランティアや中間的就労機会	就労支援	医療面の支援	その他	無回答
全年代	97	40.2	29.9	19.6	28.9	41.2	22.7	24.7	24.7	35.1	23.7	24.7	33.0	13.4	8.2
10代以下	20	35.0	35.0	40.0	35.0	50.0	20.0	15.0	40.0	30.0	30.0	30.0	45.0	20.0	5.0
20代	18	50.0	38.9	27.8	38.9	55.6	16.7	27.8	22.2	27.8	50.0	50.0	27.8	0.0	11.1
30代	12	50.0	41.7	8.3	16.7	58.3	50.0	16.7	16.7	33.3	16.7	25.0	25.0	16.7	0.0
40代	18	38.9	27.8	16.7	27.8	22.2	16.7	16.7	22.2	44.4	11.1	16.7	38.9	16.7	0.0
50代	15	40.0	26.7	6.7	26.7	20.0	20.0	33.3	20.0	46.7	26.7	13.3	40.0	13.3	13.3
60代	12	8.3	8.3	0.0	25.0	41.7	25.0	33.3	25.0	25.0	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7
無回答	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

ひきこもり本人が必要とする支援については、年代による差異が見られました。10代から30代では「居場所」の回答が5割以上である一方、40代、50代では2割程度となっています。

また、20代では「ボランティアや中間的就労の機会」「就労支援」が5割、30代では「ピアサポート」が5割となり、40代、50代では「経済的支援」が4割を超えており、いずれも他世代より多い結果となりました。

【クロス集計】 回答者別 ひきこもり本人が必要とする支援

・ひきこもり本人自身の回答（n＝25）と、ひきこもり家族等の回答（n＝72）の比較です。

	n	情報を届けること	来所相談	オンライン相談	訪問相談	居場所	ピアサポート	家族高齢化対応の支援	生活支援	経済的支援	ボランティアや中間的就労機会	就労支援	医療面の支援	その他	無回答
本人自身	25	56.0	40.0	12.0	32.0	44.0	24.0	20.0	28.0	48.0	20.0	20.0	52.0	16.0	0.0
家族等	72	34.7	26.4	22.2	27.8	40.3	22.2	26.4	23.6	30.6	25.0	26.4	26.4	12.5	0.0

全体として、「本人自身の回答」の方が「家族等の回答」よりも割合が高い傾向となりました。「情報を届けること」や「医療面での支援」では5割を超えていて、続いて「経済的支援」が5割弱となりました。「家族等の回答」では、最も多いのが「居場所」の4割で、続いて「情報を届けること」、「経済的支援」となりました。

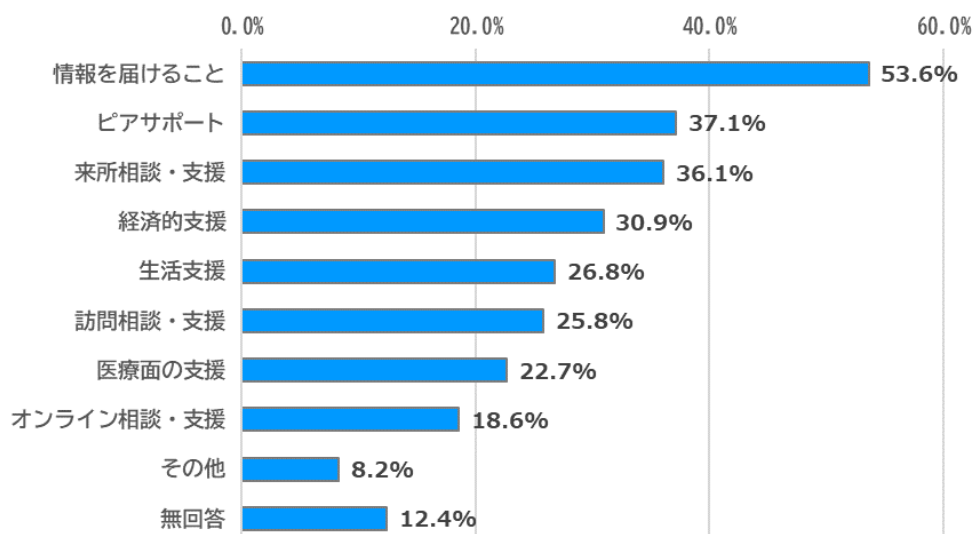
(16) ひきこもり本人の家族等が必要とする支援

25. 「ひきこもり状態にある方のご家族」へ必要な支援は何だと思いますか。(いくつでも)

n=97

(人)

ひきこもり支援に関する情報を届けること	52
ピアサポート（家族会、同じ悩みを持つ方との交流）	36
家族への来所相談・支援	35
経済的支援	30
生活支援	26
家族への訪問相談・支援	25
医療面の支援	22
オンライン相談・支援	18
その他	8
無回答	12



ひきこもり状態にある方のご家族への支援については「情報を届けること」が53.6%で最も多く、次いで「ピアサポート」が37.1%、「来所相談・支援」が36.1%、「経済的支援」が30.9%、「生活支援」26.8%、「訪問相談・支援」25.8%となりました。

その他（8件）：主な内容

年齢的に仕方ない／ゆるやかに通える場所で雑談可能な人がいるところ／周囲のハラスメントをなくすること

【クロス集計】 回答者別 ひきこもり本人の家族が必要とする支援

・ ひきこもり本人自身の回答（n＝25）と、ひきこもり家族等の回答（n＝72）の比較です。

	n	情報を届けること	来所相談	オンライン相談	訪問相談	生活支援	経済的支援	ピアサポート	医療面の支援	その他	無回答
本人自身	25	52.0	32.0	20.0	40.0	28.0	40.0	36.0	28.0	12.0	12.0
家族等	72	54.2	37.5	18.1	20.8	26.4	27.8	37.5	20.8	6.9	12.5

ひきこもり本人の家族が必要とする支援については、「本人自身の回答」「家族等の回答」とともに「情報を届けること」の割合が5割を超えました。また、「家族等の回答」で2番目に多かった「来所相談」「ピアサポート」については、「本人自身の回答」と大きな差は見られませんでした。

一方、「訪問相談」は、「本人自身の回答」は4割でしたが「家族等の回答」は約2割、「経済的支援」は「本人自身の回答」は4割でしたが、「家族等の回答」は3割弱と差が見られました。

第3節 文京区のひきこもり支援への意見、要望（記述）

文京区のひきこもり支援について、ご意見ご要望がありましたらご記入ください。

区への意見は、86件の回答がありました。各項目の回答件数と主な意見は下記の通りです。（内容は要約しています。）

（１） ひきこもり支援センターに関すること（９件）

- ひきこもり支援センターという独立したセンターの存在は知りませんでした。「ひきこもり支援」に特化されている印象で、自分が知らなかったことを残念に思いました。
- ひきこもりという言葉ができたことで問題視されているように思います。一定程度生活が営める人は、希望がなければそのままで良いのではないのでしょうか。本人が希望した時の受け皿となる相談窓口（支援センター）があることは良いことだと思います。
- 区が積極的ではなく、受け身の相談対応であると感じます。やりすぎと思われても、その方が救われる方がいるのではないかと思います。
- ひきこもる前に支援することが必要だと思います。

（２） 相談に関すること（７件）

- ひきこもり状態の家族がいないと回答しましたが、最低限のつながりしか持たない家族を持つ家庭には、ひきこもりの方の家族と同様の不安や課題があるように感じています。
- 親や家族や友人では解決の糸口が見つけられないので、早期に専門家が介入して欲しいです。
- 相談者との関係構築は難しいものですが、定期的な連絡やイベント案内等、継続的な関わりをお願いしたいと思っています。
- 親亡きあとに、経済的支援につなぐ人が必要です。
- 定期的に電話などで本人に状況伺いをして欲しいです。

（３） 茶話会や講演会に関すること（３件）

- 茶話会や講演会の回数を増やしてほしいです。茶話会は、月に１回はやってほしいです。
- 講演会は自宅から出られない人の為にも動画配信もしてほしいです。地域の人に会いたくないから行かない人も助かると思います。

（４） 支援メニューに関すること（２１件）

- 区内の企業とひきこもりの方をマッチングする支援が必要だと思います。
- ひきこもって介護をしている方への支援が必要だと思います。
- ゲームができたり漫画が置いてある居場所、１人で過ごせる居場所をたくさん作ってほしいです。
- シビックコンサートの無料招待や、無料で使える施設などがあれば外出や相談に繋がるきっかけになると思います。
- 世代間による考えの相違が起きるので、親子共々に世代ごとの居場所の提供をしてほしいです。
- 食事提供、お菓子無料配布、子ども食堂の様なもののひきこもり版があればと思います。
- ヘルプマークの様なひきこもりマークが必要だと思う。ひきこもりの存在をまずは社会に知って貰いたい。存在を知って貰う事で今まで言い出せなかった家族の支えや勇気になりたい。

- 若年層の女性のバイトするプログラムなど、社会参加する機会や、趣味で繋がる場所などが欲しい。
- 暴力的なひきこもりを抱える家族が宿泊可能な一時的な避難場所を作ってほしい。

(5) 情報発信に関すること (8件)

- 支援についての情報発信が乏しいので広報をもっと頑張ってもらいたい。文京区のホームページからすぐに情報が得られるようにしてほしいです。
- SNS等で、相談窓口があることの発信を頻繁にすることで、相談につながると思います。
- YouTube 広告やXやInstagramの広告がよいかと思います。
- 区報に行政とつながる為の連絡先を記載しておいてもらいたいです。

(6) 調査に関すること (5件)

- アンケート結果をどのように使い役立てていくのか結果やそのプロセスも伝えて欲しい。
- アンケートではなく、家族の声を聞く機会を持ってどんな困難をかかえているか知って欲しい。
- 文京区では不登校やひきこもり、そのほか社会的に孤立状態にある方について把握するための実態調査などは行わないのでしょうか。

(7) 不登校・生きづらさ等に関すること (6件)

- 不登校傾向のある児童・生徒の家族は、将来の相談先や相談情報がわかるとよいと思いました。
- ひきこもりの定義の中に「不登校」等も含めた広い意味での支援をお願い致します。

(8) その他 (27件)

- 行政以外の活動への支援や補助をして、ひきこもり早期に家族以外の他者との繋がりを維持できる方法や場所を作ってほしいと思います。
- ひきこもりに関しての正しい知識や、精神疾患に関しての理解をすることも支援の一つになると思います。
- 一般区民として協力したいを気持ちはありますが、具体的にどんな関わりをすればよいのかわかりません。
- 身近に本人はいませんが、他人事ではないと感じています。
- 家族が一時期ひきこもり状態だったため、困った時に頼れるところがあることを知っていることは心強いです。

第2章「文京区ひきこもり支援に関する調査」（支援関係機関向け）

第1節 支援関係機関向け調査概要

1. 調査名

「文京区ひきこもり支援についての調査アンケート」

2. 調査の目的

支援関係機関を対象に、ひきこもり支援窓口の認知度や広報物の活用、及び支援関係機関におけるひきこもり支援についての課題を把握し、より円滑な連携の在り方を検討する材料としました。

3. 調査の対象・方法・期間

【調査対象】

区内および東京都のひきこもり等支援（相談、居場所等）を行っている関係機関（文京区ひきこもり支援センター含む）全20機関

【調査方法】

- ・各支援関係機関に調査票を郵送し、機関の代表者1名に回答を依頼。
- ・代表者以外では、ひきこもり支援センターと連携して支援を実施した支援関係機関の職員に対しヒアリングを実施。

【調査期間】 令和6年11月21日(木)～令和7年1月10日(土)

【回収数】 合計 20か所

4. ひきこもりの定義

この調査では、「様々な要因により、社会参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、概ね自宅にとどまり続けている状態」を「ひきこもり」と定義しています。

※「ひきこもり」は状態を指す概念であり、それ自体は必ずしも問題行動や疾患を意味するわけではありませんが、本人が自尊心や、生きがいをもって自分らしく、よりよく生きる意欲や勇気について、失っている場合が少なくありません。

5. 調査結果の見方

- (1) 図・表中のnは、該当質問での回答者数を表します。
- (2) 「複数回答」と記載のあるものは質問に対する回答がいくつでもよい質問を表し、特にことわり書きのない場合は質問に対する回答が1つの単数回答を表します。

6. 調査票内の用語について

Q2の「ひきこもり相談のリーフレット等」とは、ひきこもり支援センターのリーフレット、STEP事業講演会チラシ、同封している広報物等を指します。

第2節 調査結果

1. 回答者の概要

【調査実施機関】

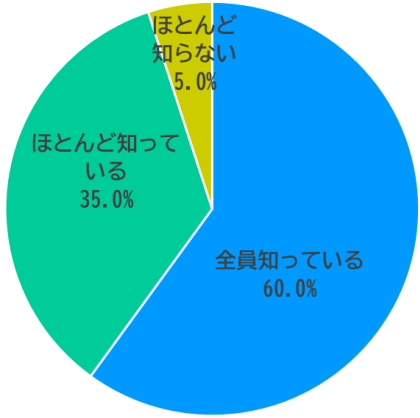
No.	支援関係機関名	職員ヒアリング
1	高齢者あんしん相談センター 富坂	
2	高齢者あんしん相談センター 本富士	
3	高齢者あんしん相談センター 駒込	
4	高齢者あんしん相談センター 大塚	
5	生活あんしん拠点 富坂	
6	生活あんしん拠点 本富士	
7	生活あんしん拠点 駒込	
8	生活あんしん拠点 大塚	
9	男女平等センター	
10	保健サービスセンター(本所)	◎
11	保健サービスセンター(本郷支所)	◎
12	教育センター	
13	社会福祉協議会	
14	障害者基幹相談支援センター	
15	ハローワーク飯田橋	◎
16	東京しごとセンター	
17	自立相談支援機関	◎
18	ワークスペースさきちゃんち	
19	ひきこもり支援センター	
20	茗荷谷クラブ(STEP事業)	◎

2. 文京区ひきこもり支援窓口の認知度について

1. 貴機関の支援者の方は文京区のひきこもり支援センターもしくは茗荷谷クラブについてご存じですか。

n=20 (件)

全員知っている	12
ほとんど知っている	7
半分程度知っている	0
ほとんど知らない	1



文京区のひきこもり支援窓口について「全員知っている」が60.0%、「ほとんど知っている」が35.0%となっており、認知は9割以上でした。「ほとんど知らない」は5%でした。

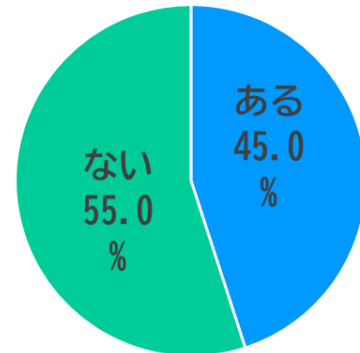
3. 区で発行した広報物の活用について

(1) ひきこもり相談のリーフレット等を渡す機会の有無

2. 貴機関の中で、ひきこもり相談のリーフレット等を、相談者に渡す機会がありましたか。

n=20 (件)

ある	9
ない	11



広報物を渡す機会の有無については、「ある」が45.0%、「ない」が55.0%でした。なお、支援関係機関の対象者別（高齢、障害、その他）での差異は見られませんでした。

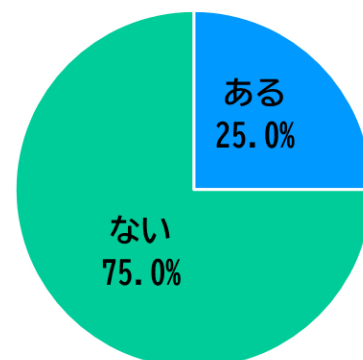
なお、区のリーフレット等は、令和6年9月に発行しており、支援関係機関への調査時期は令和7年1月上旬までだったため、発行後数か月での状況となっています。

(2) 広報物に対する意見

2. 令和6年9月に発行した広報物（親亡き後の不安を安心へ、区報特集号、ミドルエイジハンドブック）について、相談者からのご意見などはありましたか。また、支援者からのご意見などはありますか。

n=20 (件)

ある	5
ない	15



広報物に対する意見が「ある」は25.0%、「ない」は75.0%でした。

<広報に対する意見>（一部抜粋）

- ミドルエイジハンドブック（情報誌）は相談の中で使いやすい。ただ、相談につながっていない方が手に取ったとき、どのように変化するのかは今後様子を知っていきたい。
- イラストが多くあり、今後の生活を不安に思っている方にも安心して読んでいただけたと思います。自立生活を目指している障害のある方にも、わかりやすいパンフレットだと感じました。
- マンガなどもあって読みやすいが字が少し小さい箇所は読みづらい。
- 親亡き後の手続きや心配に対して直接的な表現がはばかれる場面でも、ハンドブックを通して具体的な話をできるので、良いツールになっていると感じます。
- 広報物を見た家族から相談を促された方がいました。

4 支援関係機関における支援課題とニーズ

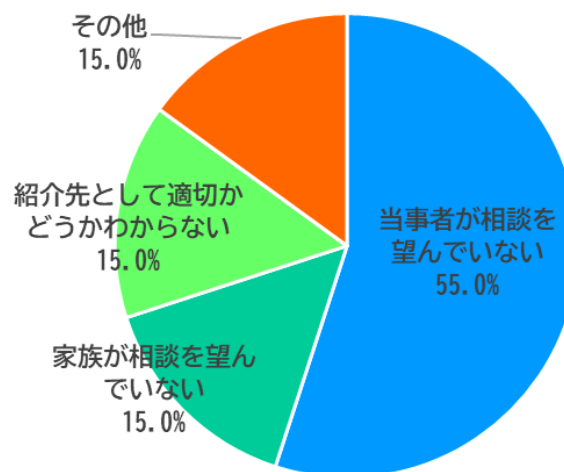
(1) ひきこもり相談の窓口につなぐにあたっての課題

4. ひきこもり相談の窓口につなぐにあたって課題だと思うことは何ですか。（最も課題だと思うものを1つ）

n=20

(件)

本人が、ひきこもりの相談・支援を望んでいない（家族は相談を望んでいても）	11
家族が、ひきこもり本人の存在を隠したりひきこもり相談を望んでいない	3
ひきこもり相談・支援の内容や具体的な解決策がよくわからず、紹介先として適切かどうかわからない	3
本来の支援に影響が出てしまう	0
支援関係機関への連絡や同行に時間をとられてしまう	0
その他	3



課題としては、「本人がひきこもりの相談・支援を望んでいない（家族は相談を望んでいても）」の選択肢への回答が55.0%と最も多く、次に「家族が、ひきこもり本人の存在を隠したりひきこもり相談を望んでいない」が15.0%、「ひきこもり相談・支援の内容や具体的な解決策がよくわからず、紹介先として適切かどうかわからない」が15.0%と続く結果になりました。

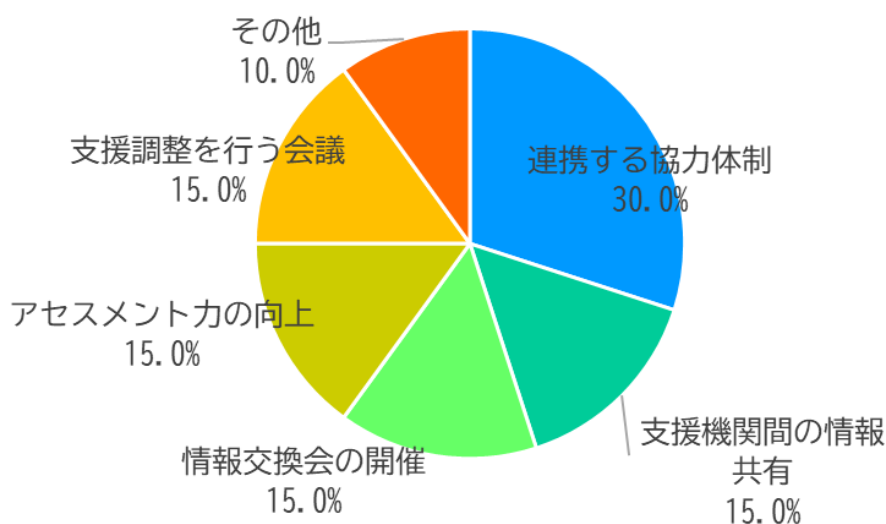
その他（3件）：主な内容

- ・相談したいと思っても、（ご家族も本人の方も）難しいだろうとハードルが高く感じられていること（窓口だけでなく、第三者に伝えること自体）

(2) 網の目のような体制で支援するために必要と考えること

5. 複合的な課題を含むひきこもり相談のケースを、網の目のような体制で支えていくために必要なことは何だと思えますか。（最も必要だと思うものを1つ）

n=20	(件)
各支援機関が支援の範囲を広げて連携する協力体制	6
ケースの情報が入った段階での支援機関間の情報共有	3
連携する支援機関での定期的な情報交換会の開催	3
ひきこもりケースのアセスメント力の向上	3
各支援機関の支援の調整を行う会議	3
その他	2



「各支援機関が支援の範囲を広げて連携する協力体制」への回答が30.0%と最も多く、次に「ケースの情報が入った段階での支援機関間の情報共有」が15.0%、「ひきこもりケースのアセスメント力の向上」が15.0%と続く結果になりました。

その他（2件）：具体的内容

- ・顔の見える関係づくりと必要に応じた連携
- ・粘り強くチームで関り続けること

5 自由意見（一部抜粋）

（高齢者支援機関）

- ・ハンドブックは役に立つ情報と思うが、いかに読んでもらうか、なかなかハードルが高いと思います。
- ・この数年のうちに関係機関の連絡会、各種研修、リーフレットの作成など、文京区の取り組みは素晴らしいと思います。一方、高齢分野では、ひきこもりに近い状態が長期化していると思われるケースへの対応がまだ進んでいない状況です。

（ひきこもり相談、居場所事業実施機関）

- ・「ひきこもり」の看板の窓口と、そうではない看板の窓口で拾っていく必要があります。そうではない看板としては、「暮らし相談」「生きづらさ相談」などさらに広めの窓口があると良くそれに見合う人員体制、伴走型を作れるとよさそうです。また、相談の先につながる「出口支援」が一層充実するとよいと思われます。近所の目を気にする方には、広域連携の文脈で拡充できるとよいのかもしれませんが。
- ・Q5（網の目のような体制で支援すること）ができる様に話し合っていける機会がありましたらありがたいです。

（就労関係機関）

- ・現在事業を利用している方にも少数ですがひきこもりの経験者がおり、長く仕事をしてない状況から一般就労を目指す方もいます。所属職員にはひきこもり支援の専門知識がないため、区の専門セクションとの連携は不可欠であると考えます。
- ・当財団は求職者向け支援を実施している施設のため、直接ひきこもりに関する支援は行っておりませんが、求職活動に踏み出すための「ワークスタート」という事業を実施しています。ひきこもり経験者の方も参加しており、ワークスタート終了後はそのまま求職者サービスに引き継ぎ就職まで支援しています。ひきこもり支援と何か連携等できるものはないかと考えています。

（障害者支援機関）

- ・直接家族の方からの相談が増えてきています。相談があった際には、まず話を伺うことから始まりますが、今後の連携の取り方、引き継ぐタイミング等の相談をさせていただきたいです。
- ・精神疾患が背景にあると思われるひきこもりのケースで、医療との連携に難しさを感じました。相談できる支援機関が複数あっても、実際に会えているのは1つの機関で行き詰まりを感じてしまう事例がありました。スーパーバイズの体制があるとありがたいです（茗荷谷クラブに相談してしまうことが多くとてもありがたく思っています）
- ・ひきこもりについても本人根拠ではなく、社会側の課題として捉える中では、世帯全体での支援の重要性も考えられます。重層的支援体制整備事業ともつながるが、縦割りの支援ではなく、柔軟かつ多面的な対応が求められる為、支援機関との連携も欠かせないと考えています。

第3章「資料編」

1 区民向け調査

(1) 調査協力依頼

文京区ひきこもり支援に関する調査 回答へのご協力をお願い



日頃より文京区政についてご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

文京区は、ひきこもり支援センターを開設し、ひきこもり当事者の方やご家族の方に寄り添った多様な生き方が尊重される地域を目指しています。

本調査は、ひきこもりや生きづらさを抱えた方を含め、誰もが安心して暮らせる地域について考えていくことを目的としたものです。ご回答いただいた内容は、今後の文京区における施策の検討に使用します。

本調査の趣旨をご理解いただき、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 【回答方法】 ① 2次元コードでの回答) ①、②のどちらか
② 紙調査票での回答
返信用封筒にてご返送ください。

⇩調査回答用2次元コード



- ・本調査は無記名回答方式です。個人が特定されることはありませんので、お感じになっていることを率直にご回答ください。
- ・アンケートの集計結果は区ホームページに公表することを予定しています。

【問い合わせ先】 文京区福祉部生活福祉課自立支援担当 ひきこもり支援センター
電話：03-5803-1917 受付時間：8:30～17:15（土・日・祝日を除く）

(2) 区報特集号



区報 ふんきょう

令和6年
(2024)

9/20

発行 / 文京区

編集 / 福祉部生活福祉課

〒112-8555 文京区春日 1-16-21

代表 ☎ **03-3812-7111**

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/>

ひきこもり・生きづらさサポート 特集号

ひきこもり

誰もが安心して暮らせる地域のつながりについて 一緒に考えませんか？

人とのつながり
地域の場とのつながり
未来へのつながり
心のつながり...

ひきこもり・生きづらさを抱えた方が
「つながること」によって安心して暮らせるように
文京区の「ひきこもり・生きづらさのサポート」
について、ご案内します

生きづらさ

文京区は、ひきこもる方の尊厳を守ります 文京区ひきこもり支援に関する調査 あなたの声を 聴かせてください

<調査の回答方法>

①オンライン

調査への回答はこちら▶



②紙面

アンケート用紙と返信用封筒を送付しますので、
ひきこもり支援センターまでご連絡ください。

対象：15歳以上の文京区民（無記名調査）



ひきこもりに関する
区のサポートがある
って知ってる？



あなたがひきこもる
ことになったら
どこに相談する？



普段利用している
情報収集の手段は
何？



ひきこもりって
どんなイメージ？



文京区は、ひきこもり当事者の方やご家族の方に寄り添った多様な生き方が尊重される地域を目指しています。ぜひご回答にご協力ください！

調査に関する問合せ、ハンドブックの申込、相談は下記へ 文京区ひきこもり支援センター

文京区生活福祉課 自立支援担当

文京シビックセンター9階

☎ **03-5803-1917**

月～金曜 8:30～17:00



ひきこもり支援センターキャラクター
ポウたん

資料請求 ひきこもり情報誌

ひきこもり・生きづらさを抱えた方のための
ミドルエイジ

「ライフハンドブック」

ご希望の方に配布しています。



調査の中に、送付希望の項目があります。調査回答以外
で送付ご希望の方は、文京区ひきこもり支援センターまで
ご連絡ください。

(3) 調査票

文京区ひきこもり支援に関する調査

以下の各質問内容にお答えいただき、同封の返信用封筒にてご提出をお願いいたします。

本調査は回答者のプライバシーを保護するために匿名で回答いただきます。記入いただいた情報は、集計および分析に使用いたします。ご了承の上、記入をお願いいたします。

なお、Web でも回答が可能です。Web の場合は右記の2次元コードを読み取っていただき、回答をお願いいたします。

※本調査は1人1回答までとさせていただきます。

この調査では以下に該当する状態を「ひきこもり」と定義しています。

- ▶ 様々な要因により、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、概ね自宅にとどまり続けている状態を言います。
- ▶ 状態を指す概念であり、それ自体は必ずしも問題行動や疾患を意味するわけではありませんが、当事者は自尊感情を失っていたり、生きがいをもって自分らしく、よりよく生きる意欲や勇気を失っている場合が少なくありません。

記入は□に✓をお願いします。設問について「あなた」とは記載者を指します。

答えにくい質問には、無理にお答えいただかなくてかまいません。

回答数について指定のないものは1つだけ選択してください。

▶ あなたについてお聞かせください。

1 どちらにお住まいですか？

- ☐ 文京区 ☐ 文京区外

2 あなたの年代をお答えください。

- ☐ 10代以下 ☐ 20代
☐ 30代 ☐ 40代
☐ 50代 ☐ 60代
☐ 70代 ☐ 80代以上

3 差し支えなければ、あなたの性別をお答えください。

- ☐ 男性
☐ 女性
☐ どちらでもない
☐ 回答しない

4 現在の就労状況についてお答えください。

- ☐ 正規の勤務・常勤 ☐ 主婦・主夫
☐ 非正規・パート ☐ 無職
☐ 自営業・自由業 ☐ 学生

▶ あなたの考えについてお聞かせください。

1 あなたが社会福祉に関する分野の中で関心があるものは何ですか。（いくつでも）

- ☐ 高齢者 ☐ 子育て ☐ 障害者 ☐ 生活困窮者 ☐ ひとり親家庭
☐ 年金 ☐ ひきこもり ☐ いじめ ☐ ハラスメント ☐ 特にない
☐ その他（具体的に： _____）

2 あなたは「ひきこもり」という状態について、どのような印象・考えを持っていますか。（いくつでも）

- ☐ 誰にでも起こりうる ☐ ストレスから身を守っている ☐ 他人事ではない
☐ 人に言いづらい ☐ 病気や障害である ☐ つらい経験があった
☐ 甘えている ☐ 働かないことが問題 ☐ 親の育て方が悪い
☐ 無理にでも外に引っ張り出すべき ☐ 特にない
☐ その他（具体的に： _____）

3 もし、あなたがひきこもりの状態になったら、そのことをどこに相談しますか。（いくつでも）

- ☐ 家族・親族 ☐ 友人・知人 ☐ 医療機関 ☐ 学校
☐ ひきこもりに専門性のある行政の相談窓口（ひきこもりに関する相談窓口、保健サービスセンターなど）
☐ 上記以外の行政の相談窓口 ☐ 民間の支援団体 ☐ 民生委員
☐ 同じ悩みを抱える人（当事者会・家族会など） ☐ 相談しない、できないと思う
☐ その他（具体的に： _____）



←Web 回答はこちらから



調査の概要はホームページでもご確認いただけます。

←ホームページはこちらから

調査回答締切日：2024 年 10 月 31 日（木）

ひきこもり情報誌（ミドルエイジ ライフハンドブック）を配布（無料）しています。ご希望の場合は送付先をご記入ください。
（電話でも受け付けています）なお、お届けにはお時間をいただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

お名前 _____

ご住所 〒 _____

4 ひきこもりに関する区のサポートについて、あなたが知っているものはありますか。

この中から知っているものすべてをお選びください。（いくつでも）

- ☐ ひきこもりに関する相談窓口 ☐ 心理相談 ☐ 個別相談会 ☐ 講演会 ☐ コミュニティカフェなどの居場所
☐ 当事者会や家族会での交流 ☐ 社会参加活動のサポート（ボランティア体験や短時間就労経験）
☐ その他（具体的に： _____） ☐ どれも知らない

5 ひきこもりに関する区の取組について、区の広報等で見たことがあるものはありますか。（いくつでも）

- ☐ 区のホームページ ☐ ポスター ☐ リーフレット ☐ チラシ ☐ 区報
☐ SNS（X、LINE、Facebook） ☐ その他（具体的に： _____） ☐ どれも知らない

6 以下に挙げられた通信手段の中で、あなたが普段利用しているものは何ですか。（いくつでも）

- ☐ スマートフォン ☐ 携帯電話（スマートフォン以外） ☐ パソコン ☐ タブレット
☐ 固定電話 ☐ その他（具体的に： _____） ☐ 何も利用していない

7 以下に挙げられた情報収集手段の中で、あなたが普段利用しているものを上位 3 つまでお選びください。（3 つまで）

- ☐ インターネットの検索サイト（Google など） ☐ SNS（X、LINE、Facebook、Instagram など）
☐ YouTube などの動画配信 ☐ 区のホームページ ☐ 広報誌（区報等自治体からのお知らせ）
☐ 区の窓口 ☐ 医療機関 ☐ 新聞、雑誌、書籍 等 ☐ テレビ・ラジオ ☐ 友人・知人からの情報
☐ 電話での通話 ☐ その他（具体的に： _____）

8 ひきこもりの方へのサポートについてご自身が関わってみたい、役に立ちたいなどの思いがありますか。

- ☐ 関心があり、力になりたい ⇒ ひきこもり支援センターまでご連絡ください
☐ 関心はあり、知識としては知っておきたい ⇒ ひきこもり支援センターでは様々な情報発信を行っています
☐ 関心はない
☐ わからない

9 あなたご自身やあなたのご家族に現在ひきこもり状態にある方がいますか。

- ☐ いる
☐ いない ⇒ 質問項目はこれで終了です。調査にご協力いただきありがとうございました。

ひきこもり状態にある方が「いる」とお答えになった方は裏面のご記入もお願い致します。

▶ あなたご自身やあなたのご家族に現在ひきこもり状態にある方が「いる」とお答えになった方にお聞きます。

- 10** ひきこもり状態にある方と同居している方をお答えください。(いくつでも)
☐ 父 ☐ 母 ☐ 子 ☐ 兄弟姉妹 ☐ 祖父母 ☐ 配偶者・パートナー
☐ その他(具体的に:) ☐ 同居している人はいない
- 11** 上記の質問に「同居している人はいない」とお答えになった方にお聞きます。その方はどちらにお住まいですか。
☐ 文京区内 ☐ 文京区外
- 12** ひきこもり状態にある方から見て、あなたはどのようなお立場ですか。
☐ 本人 ☐ 親 ☐ 子 ☐ 兄弟姉妹 ☐ 配偶者・パートナー ☐ 親族
☐ その他(具体的に:)
- 13** ひきこもり状態にある方の年代をお答えください。
☐ 10代以下 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代以上
- 14** ひきこもり状態にある方の性別をお答えください。
☐ 男性 ☐ 女性 ☐ どちらでもない ☐ 回答しない
- 15** ひきこもり状態となって、どのくらい経ちますか。
☐ 1年未満 ☐ 1年～5年未満 ☐ 5年～10年未満 ☐ 10年～20年未満
☐ 20年～30年未満 ☐ 30年以上 ☐ 不明
- 16** ひきこもり状態にある方について、就労経験がありますか。
☐ ある ☐ ない ☐ 不明
- 17** ひきこもり状態にある方について現在、働きたいという思いがありますか。
☐ ある ☐ ない ☐ 不明
- 18** 以下に挙げられた通信手段の中で、ひきこもり状態にあるご本人がふだん利用しているものは何ですか。
 (いくつでも) (ご回答者様がご本人である場合、すでにお答えいただいているため回答は不要です。)
☐ スマートフォン ☐ 携帯電話(スマートフォン以外) ☐ パソコン ☐ タブレット ☐ 固定電話
☐ その他(具体的に:) ☐ 何も利用していない
- 19** ひきこもり状態にあるご本人が自宅でよくしていることは何ですか。(いくつでも)
☐ インターネットをする ☐ 動画やサイトの閲覧 ☐ ゲーム ☐ テレビを見る、ラジオを聞く
☐ SNSなどでの発信、書き込み、チャットやメールの双方向のやりとり ☐ 本や新聞を読む
☐ 家事をする ☐ 家族の介護 ☐ 運動 ☐ ペットと遊ぶ、世話をする
☐ その他(具体的に:) ☐ 不明
- 20** ひきこもり状態にあるご本人について、あなたが気になっていることや不安なことはありますか。
☐ ある (いくつでも)
☐ 経済的なこと ☐ 健康に関すること ☐ 生活に関すること(住まい、買い物、ゴミ出し、手続きなど)
☐ 仕事に関すること ☐ 親の高齢化、介護のこと ☐ 家族以外の対人関係に関すること
☐ 家族・親族関係のこと ☐ 誰に相談してよいのかわからないこと
☐ その他()
☐ ない

21 今までひきこもりについてどこかに相談したことがありますか。

☐ ある (いくつでも)

- ☐ 家族・親族 ☐ 友人・知人 ☐ 医療機関 ☐ 学校
☐ ひきこもりに専門性のある行政の相談窓口 (ひきこもりに関する相談窓口、保健サービスセンター、など)
☐ 上記以外の行政の相談窓口
☐ 民間の支援団体 ☐ 民生委員 ☐ 介護支援者 (ケアマネージャーなど)
☐ 同じ悩みを抱える人 (当事者会・家族会など) ☐ その他 (具体的に: _____)

上記の質問にあるとお答えになった方にお聞きします。相談は継続していますか。

- ☐ している 継続先: (_____)
☐ していない 理由: (_____)
☐ 不明

☐ ない ⇒ 相談したことがない理由を教えてください。(いくつでも)

- ☐ 相談先を知らなかった ☐ ひきこもり状態であることを人に知られたくなかった ☐ 責められる、説教されると思った
☐ 相談しても解決できない、何も変わらないと思った ☐ この状態は一時的なものだろうと思っていた
☐ 過去の別の相談や支援で傷ついた経験がある ☐ 相談すると本人や家族を刺激してしまうのではないかと考えた
☐ その他 (_____)

22 ひきこもり以外の困りごとについて相談したことがありますか。

☐ ある (いくつでも)

- ☐ 家族・親族 ☐ 友人・知人 ☐ 病院 ☐ 学校 ☐ 行政 (保健所、教育センターなど)
☐ 民間の相談機関 ☐ 民生委員 ☐ 介護支援者 (ケアマネージャーなど)
☐ その他 (_____)

☐ ない 理由: (_____)

☐ 不明

23 ひきこもり状態にある方やその身近にいる方は支援を必要と感じていますか

- ☐ 本人も身近な方も必要としている ☐ 本人も身近な方も必要としていない
☐ 本人は必要としているが、身近な方は必要としていない ☐ 本人は必要としていないが、身近な方は必要としている
☐ 不明

24 「ひきこもり状態にある方」が必要とする支援は何だと思いますか。(いくつでも)

- ☐ ひきこもり支援に関する情報を届けること ☐ ご本人への来所相談・支援 ☐ オンライン相談・支援
☐ ご本人への訪問相談・支援 ☐ ご本人が利用できる居場所 ☐ ピアサポート (当事者、経験者との交流)
☐ 家族の高齢化に対応した支援 ☐ 生活支援 ☐ 経済的支援
☐ 段階的に社会参加できるボランティアや中間的就労の機会 ☐ 就労支援 ☐ 医療面の支援
☐ その他 (_____)

25 「ひきこもり状態にある方のご家族」へ必要な支援は何だと思いますか。(いくつでも)

- ☐ ひきこもり支援に関する情報を届けること ☐ ご家族への来所相談・支援 ☐ オンライン相談・支援
☐ ご家族への訪問相談・支援 ☐ 生活支援 ☐ 経済的支援
☐ ピアサポート (家族会、同じ悩みを持つ方との交流) ☐ 医療面の支援
☐ その他 (具体的に: _____)

文京区のひきこもり支援についてご意見ご要望がありましたらご記入ください。

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

2 支援関係機関向け調査

(1) 調査協力依頼

2024 文福生 1845 号

令和 6 年 11 月 27 日

ひきこもり支援関係機関の皆様

文京区 生活福祉課長

文京区ひきこもり支援に関する調査について（協力依頼）

平素は、文京区福祉行政について格段のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。

当課では、ひきこもり支援に関する取組を実施しておりますが、今年度は、リーフレット『親亡き後の心配を安心へ』、『区報特集号』、情報誌『ミドルエイジ・ライフハンドブック』の3点を発行しました。また、区民向けの調査（9月20日～11月10日）を実施し、現在集計を行っているところです。広報物3点と、調査票等を同封しておりますので、ご査収ください。

区民向けの調査とは別に、支援連携の課題等を把握するため、支援機関の皆様にご回答いただく調査を実施いたします。ご多用のところ恐縮ですが、ご協力いただきますようお願いいたします。また、ご回答後に個別にお時間をいただきヒアリングをさせていただくことがあります。その際にはあらためてご連絡差し上げます。あわせてご協力いただきますようお願い申し上げます。

- ・ご回答は支援機関につき一回答でお願いいたします。
- ・記載については、支援機関の代表者様のご回答をお願いいたします。
- ・Q2の「ひきこもり相談のリーフレット等」とは、ひきこもり支援センターのリーフレット、STEP事業講演会チラシ、同封している広報物等を指します。
- ・ご記入いただいた情報は、集計および分析に使用いたします。支援機関名を出した公表は行いません。必要に応じて、HP等での公表は行います。ご了承の上、ご回答ください。
- ・調査内容についてのご不明点につきましては、下記の問い合わせ先までお願いいたします。
- ・ご回答は**令和7年1月10日(金)までに**、交換便または同封の返信用封筒にてご返送ください。

- ・本調査では、以下に該当する状態を「ひきこもり」と定義しています。
 - ▶様々な要因により、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、概ね自宅にとどまり続けている状態を言います。
 - ▶状態を指す概念であり、それ自体は必ずしも問題行動や疾患を意味するわけではありませんが、当事者は自尊感情を失っていたり、生きがいをもって自分らしく、よりよく生きる意欲や勇気を失っている場合が少なくありません。

【提出先・問合せ】

文京区 福祉部 生活福祉課 自立支援担当

☎：5803-1917（直通）

FAX：5803-1354

メールアドレス：b302500@city.bunkyo.lg.jp

(2) 調査票

【文京区ひきこもり支援についての調査アンケート】

記入日： 年 月 日

今後の文京区のひきこもり支援推進のため、以下のアンケートへのご協力をお願いいたします。

支援機関名：（ ）

Q1 貴機関の支援者の方は文京区のひきこもり支援センターもしくは茗荷谷クラブについてご存じですか？

☐ 全員知っている ☐ ほとんど知っている ☐ 半分程度知っている ☐ ほとんど知らない

Q2 貴機関の中で、ひきこもり相談のリーフレット等を、相談者に渡す機会がありましたか？

☐ ある ☐ ない

Q3 9月に発行した広報物（親亡き後の不安を安心へ、区報特集号、ミドルエイジハンドブック）について、相談者からのご意見などはありましたか？ また、支援者からのご意見などはありますか？

☐ ある ☐ ない

「ある」と回答された方は、ご意見などをご記載ください。

Q4 ひきこもり相談の窓口につなぐにあたって課題だと思うことは何ですか。（最も課題だと思うものを1つ）

- ☐ 家族が、ひきこもり当事者の存在を隠したりひきこもり相談を望んでいない
☐ 当事者が、ひきこもりの相談・支援を望んでいない（家族は相談を望んでいても）
☐ ひきこもり相談・支援の内容や具体的な解決策がよくわからず、紹介先として適切かどうかわからない
☐ 支援関係機関への連絡や同行に時間をとられてしまう
☐ 本来の支援対象者との関係に影響が出てしまう
☐ その他 （ ）

Q5 複合的な課題を含むひきこもり相談のケースを、網の目のような体制で支えていくために必要なことは何だと思いますか？（最も必要だと思うものを1つ）

- ☐ ケースの情報が入った段階での支援機関間の情報共有
☐ 各支援機関が支援の範囲を広げて連携する協力体制
☐ 連携する支援機関での定期的な情報交換会の開催
☐ ひきこもりケースのアセスメント力の向上
☐ 各支援機関の支援の調整を行う会議
☐ その他 （ ）

Q6 文京区のひきこもり支援についてご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

文京区ひきこもり支援に関する調査 報告書
発行 令和7年5月

発行者 福祉部生活福祉課
〒112-8555 東京都文京区春日1丁目16番21号
文京シビックセンター9階北側

作成協力
特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3丁目16-12 301